

ORIGAMI

TANTEIDAN

折紙探偵団

M A G A Z I N E

定価600円



クローズアップ Close-up

展開図を折る

～Adventure 山あり谷あり完成形への道～
The Quest for the Model behind
the Crease Patterns

中井 努 Nakai Tsutomu

折り図 Diagrams

にわとり Rooster

宮島 登 Miyajima Noboru

展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge

バイオリン奏者 Violinist (2003年版)

北條高史 Hojyo Takashi

イベント情報 Event Information

第9回折紙探偵団コンベンション 参加申込み受け付け開始

The 9th Origami Tanteidan
Convention Information

新連載 New Series

やわらかユニット物語：川村みゆき
Soft Stories of Mellow Units : Kawamura Miyuki
折り紙の周辺：布施知子
Origami and Its Neighbors : Fuse Tomoko
おりがみ我楽多市：山口 真
Origami Odds and Ends : Yamaguchi Makoto
やっぱり折紙散歩：前川 淳
Origami Sanpo Indeed : Maekawa Jun

通巻 **79** 号

にわとり

ROOSTER

作／図 宮島 登

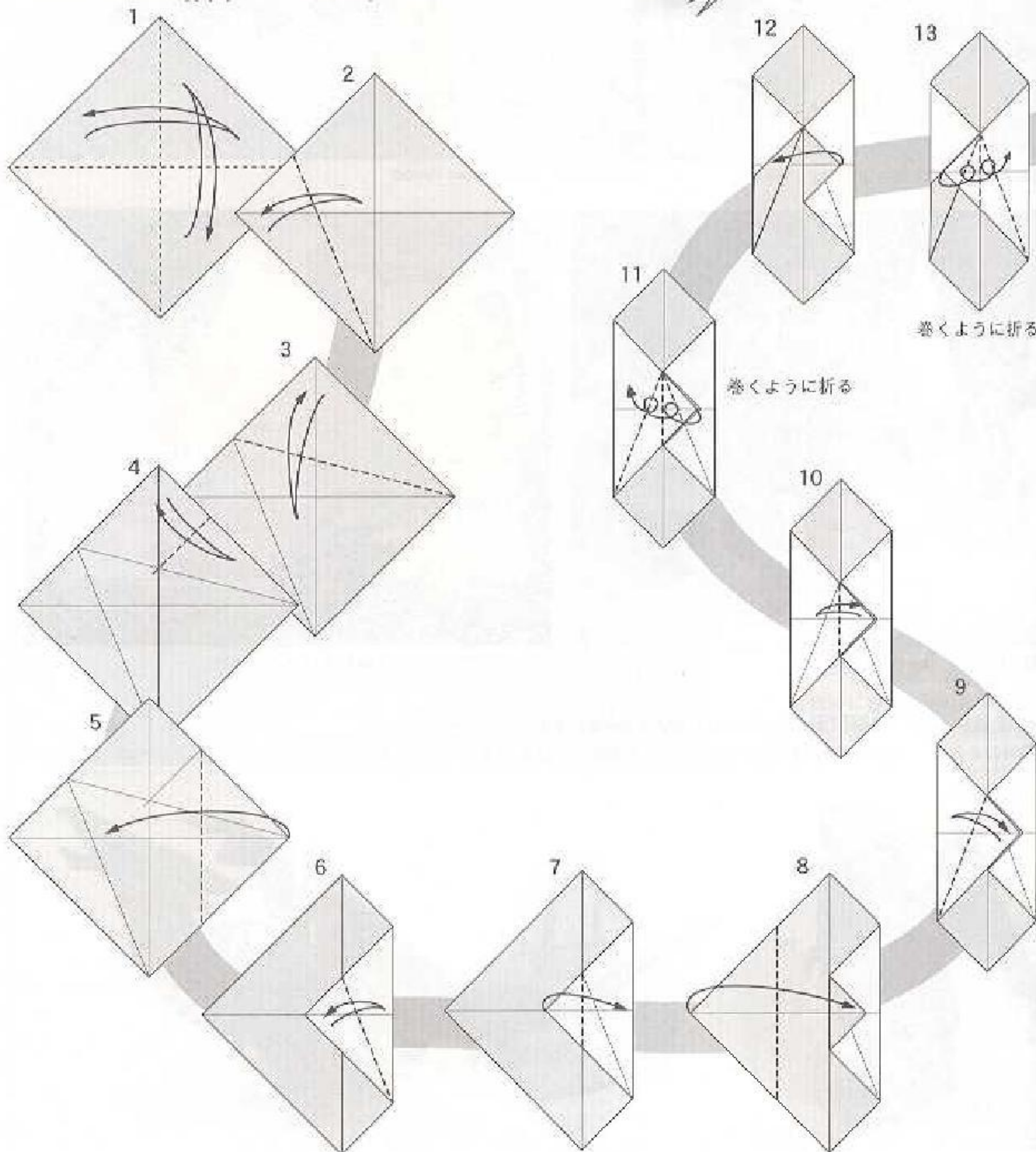
Design & Diagrams by Miyajima Noboru

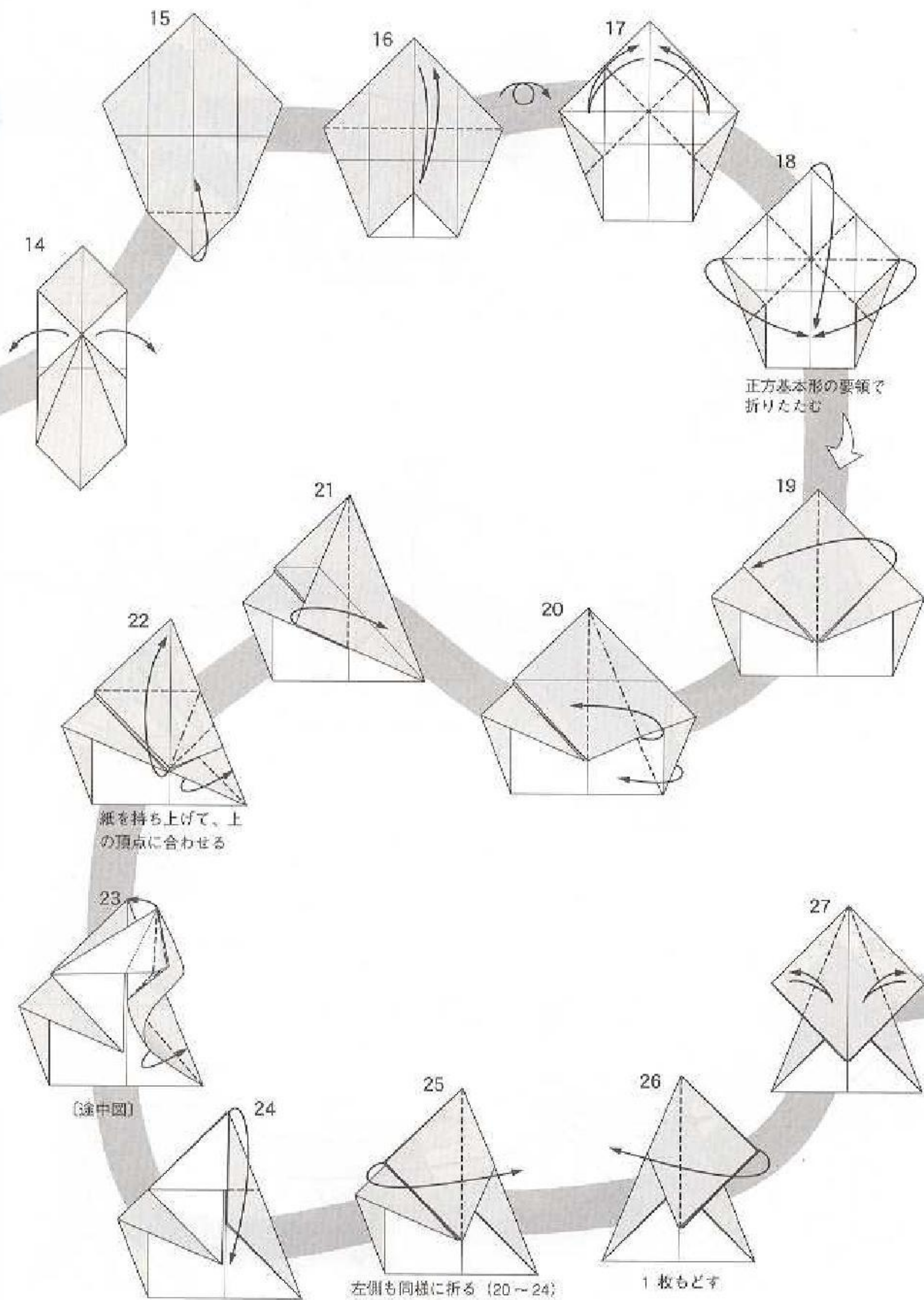
創作 2002 年 4 月

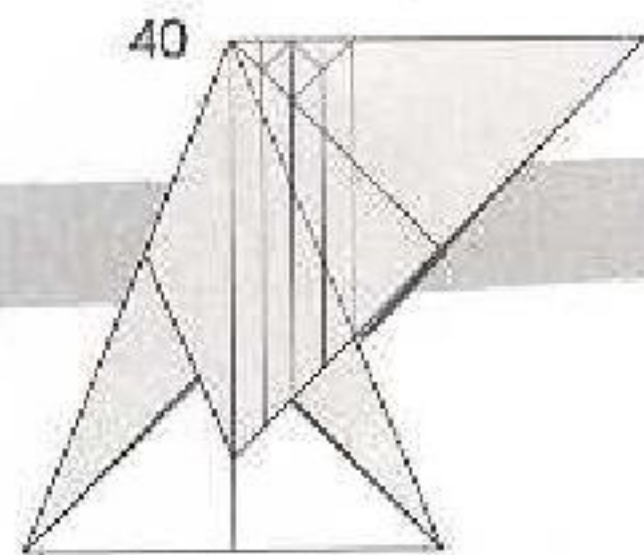
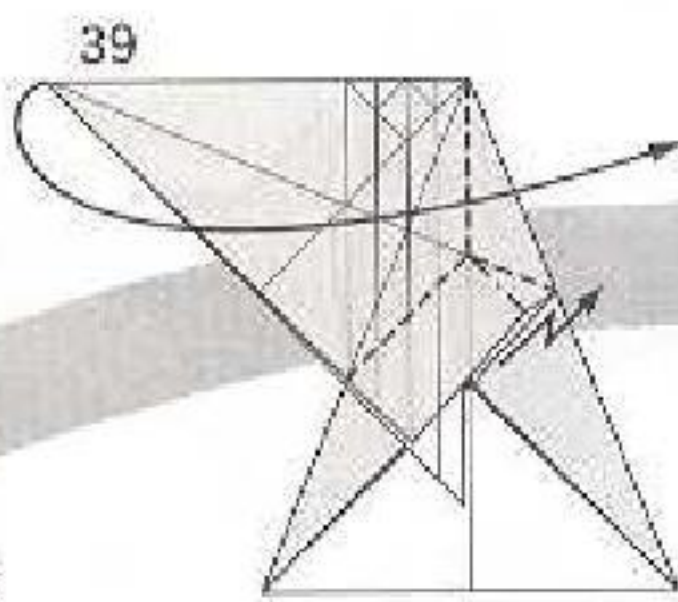
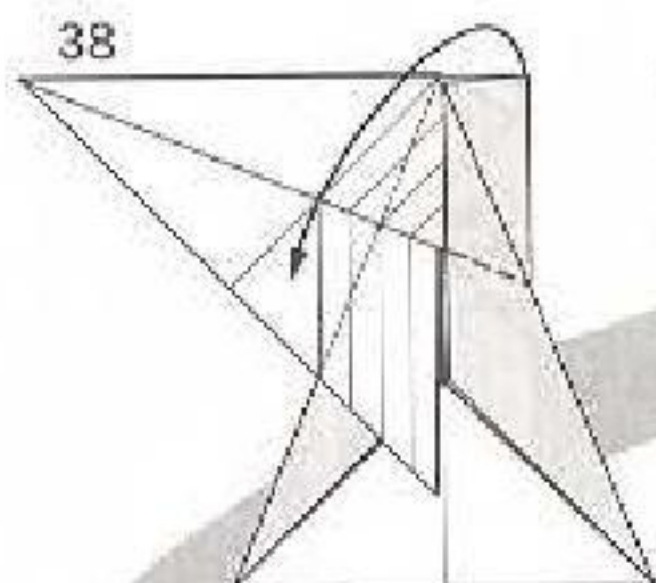
作図 2003 年 4 月



※ホイル紙で折ってください。
足の細さを出せませんので。

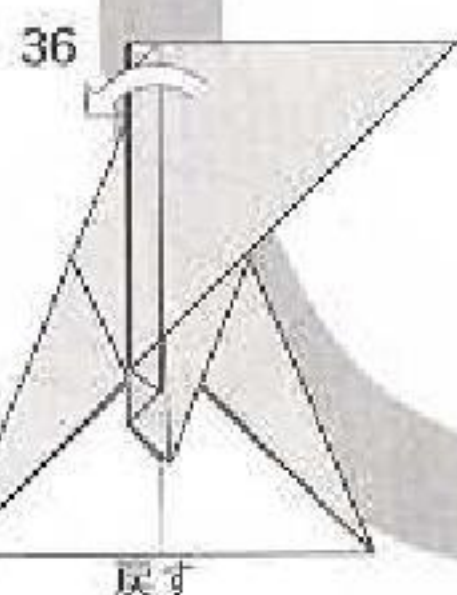
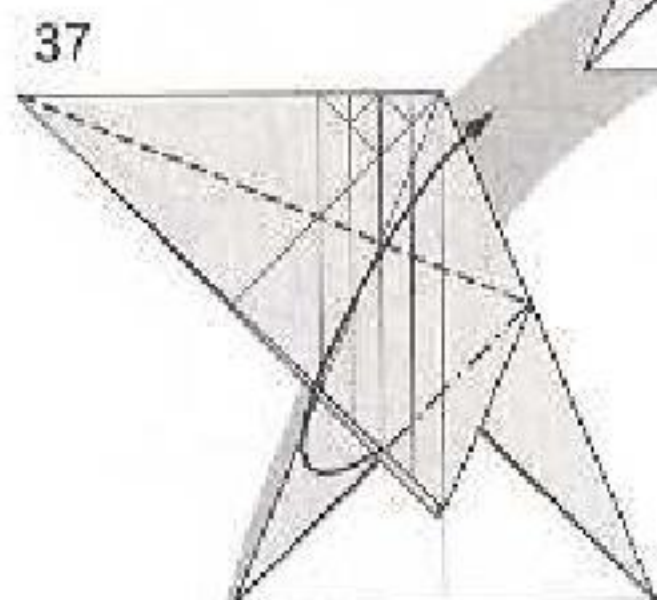




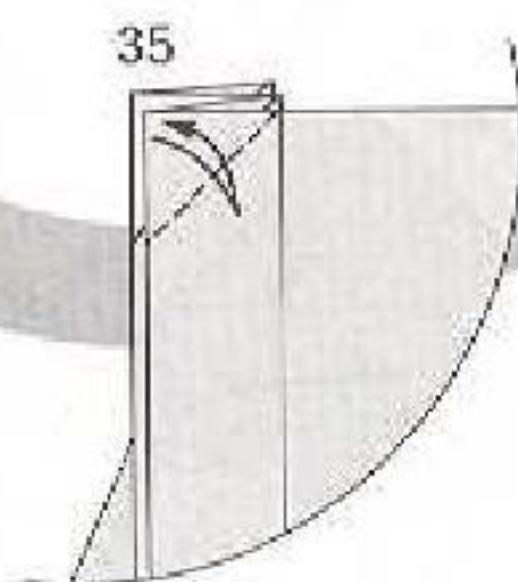


段折りして引き寄せながら、右側にたおす

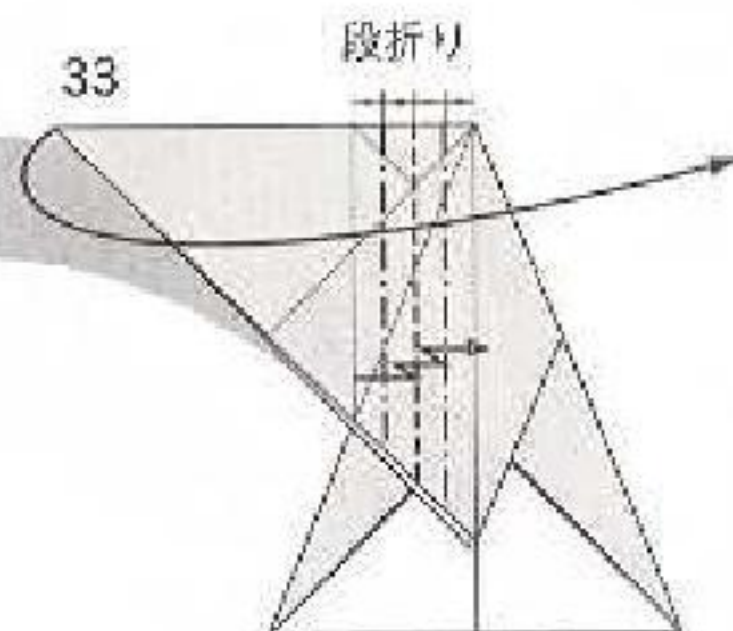
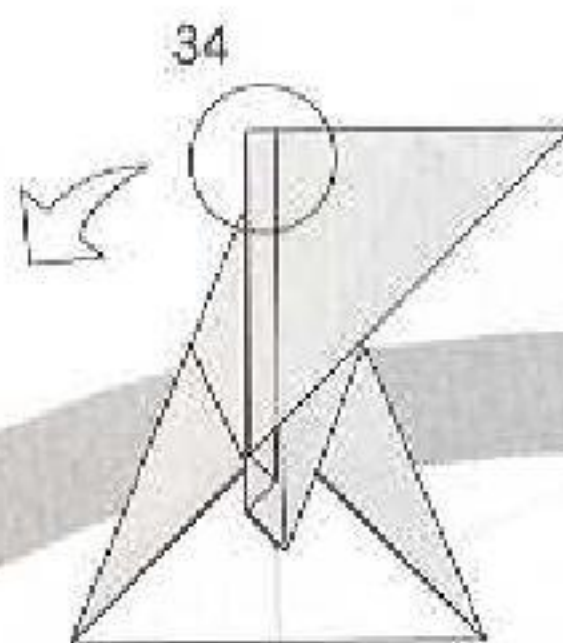
左側も同様に折る
(37~39)



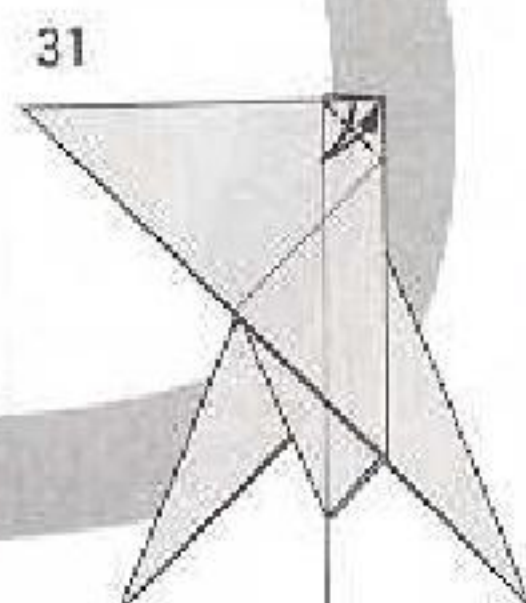
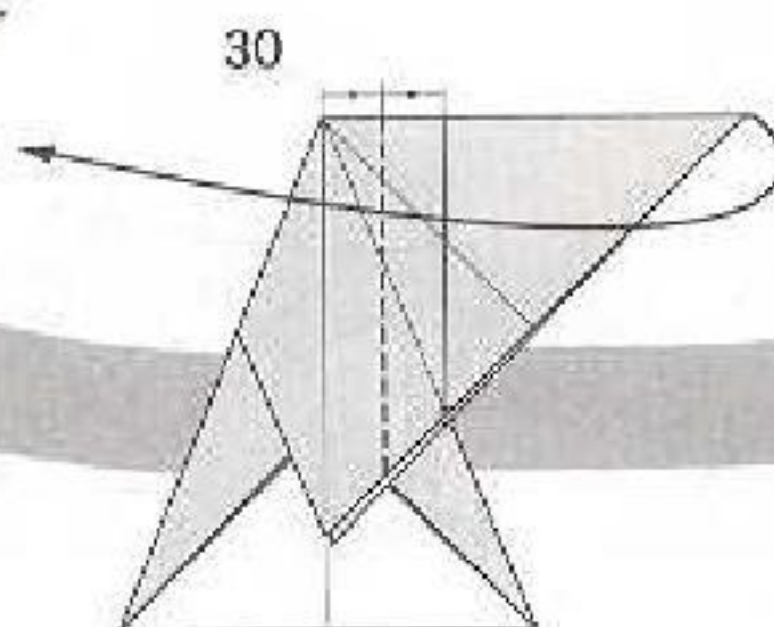
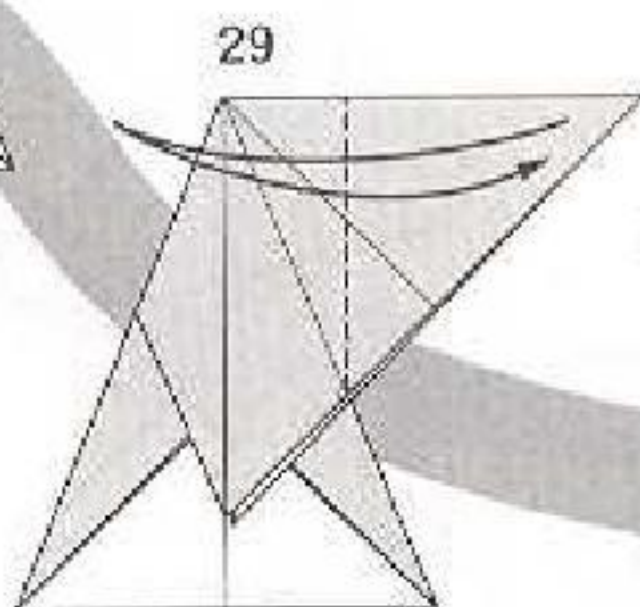
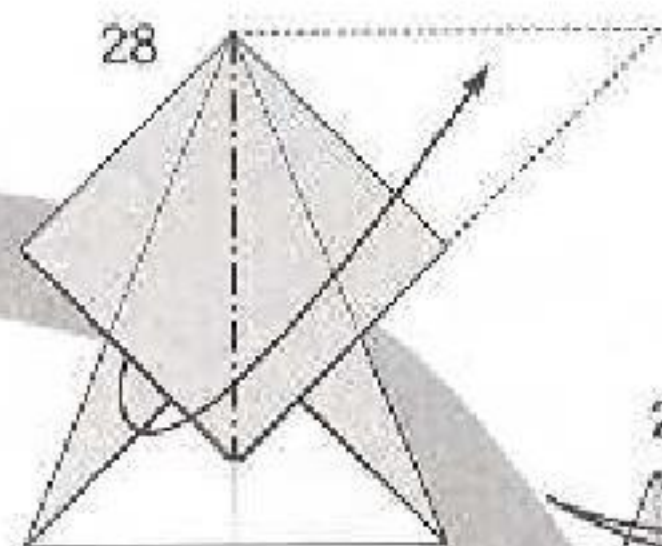
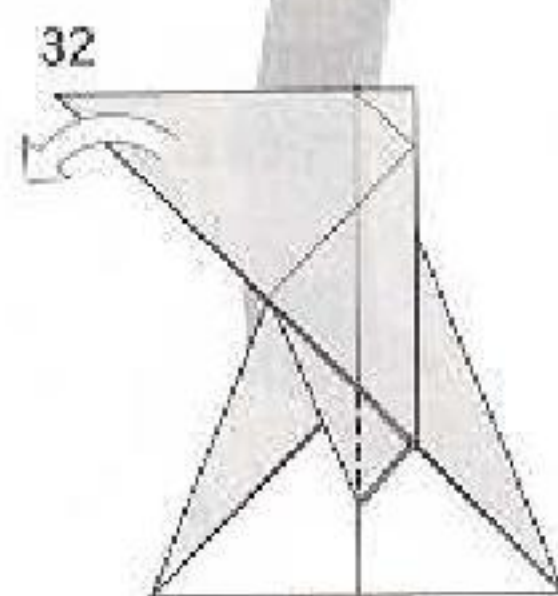
戻す

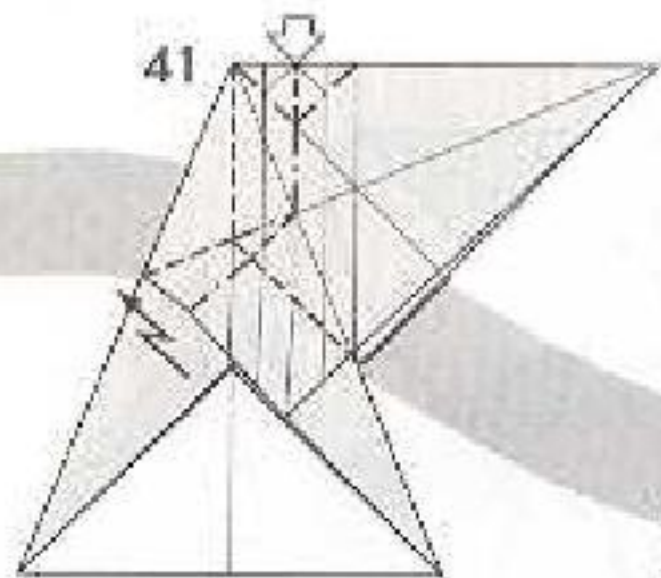


折り筋をつける
(2箇所)

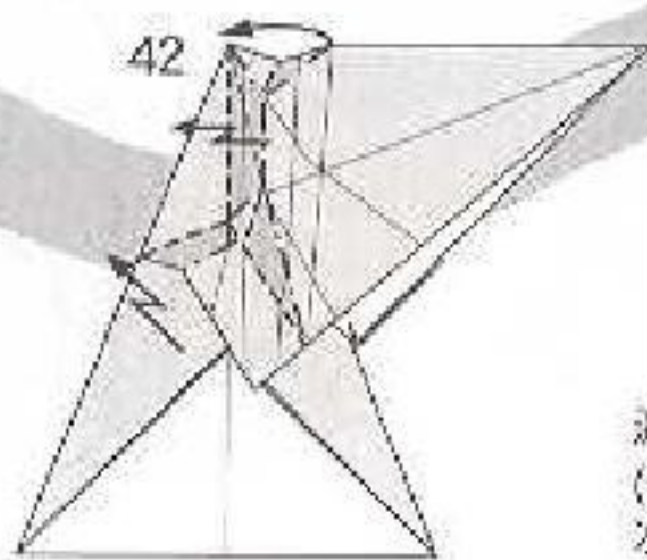


段折り

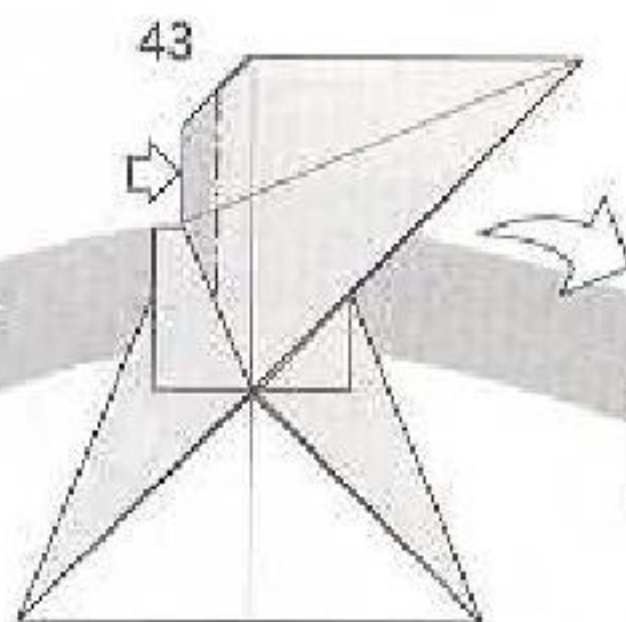




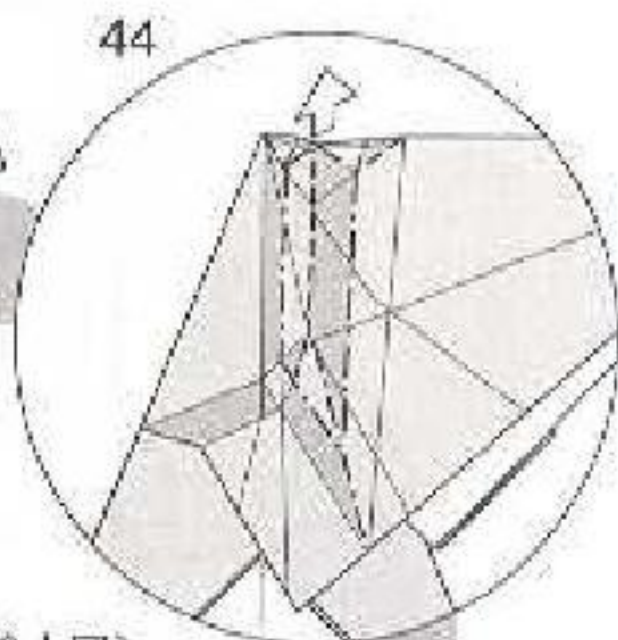
段折りして左側に引き寄せながら、白抜き矢印部分を押し込むように折る



〔途中図〕

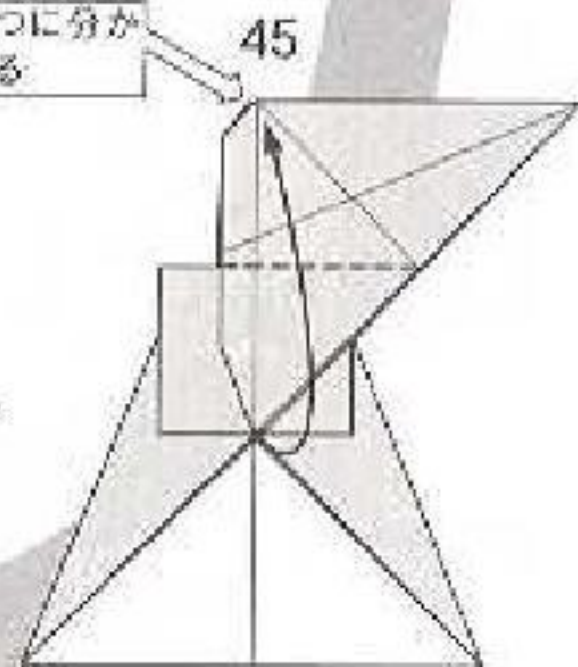


濃い網掛け部分をしずめ折り (Open Sink)
次の図をよく見ること！

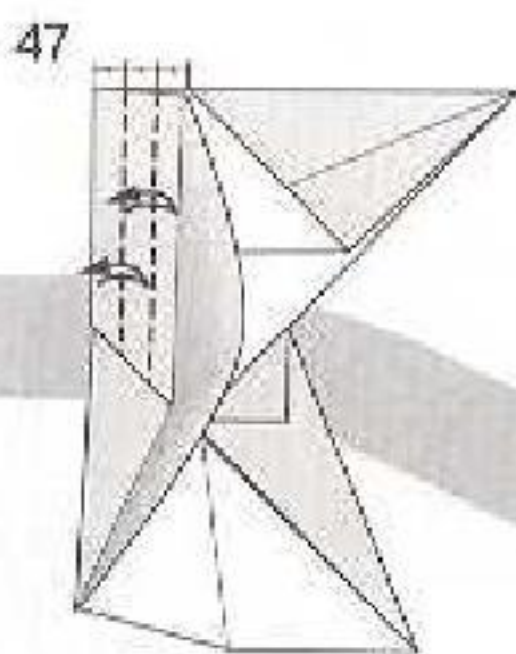
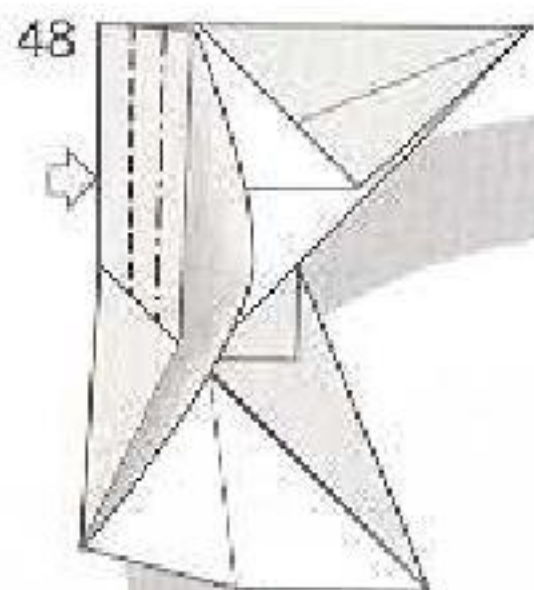


〔途中図〕
しずめ折りしながら、上部の頂点部を上方に引っ張り上げる

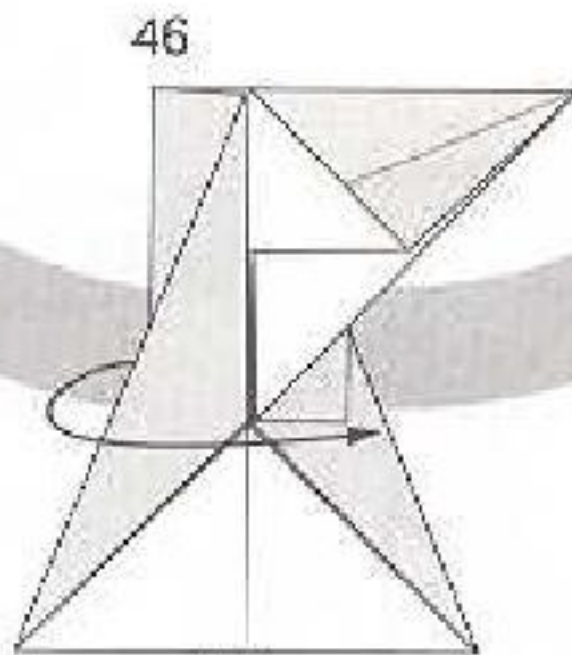
角が3つに分かれている



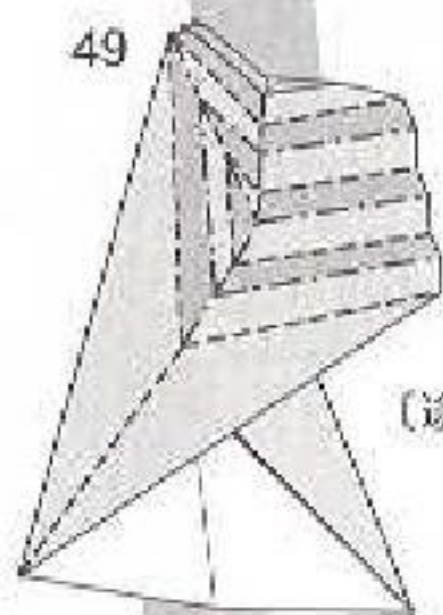
しずめ段折り (Open Sink)



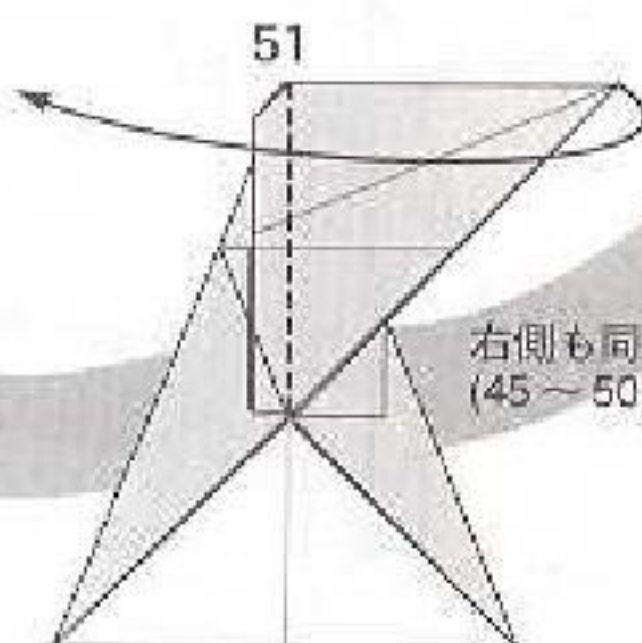
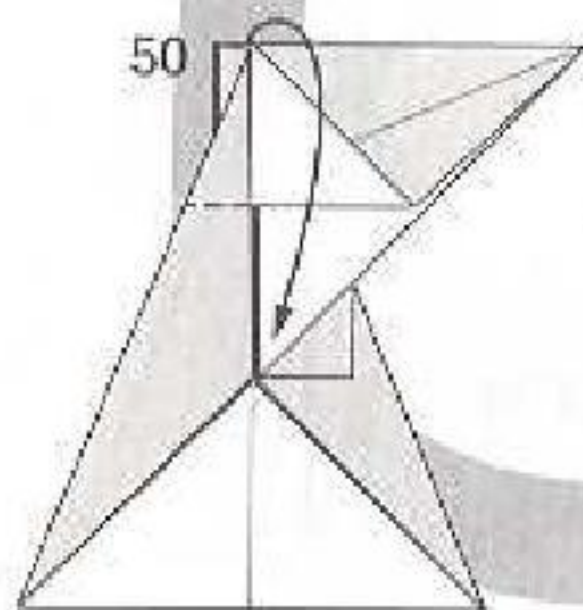
3等分して折り筋をつける



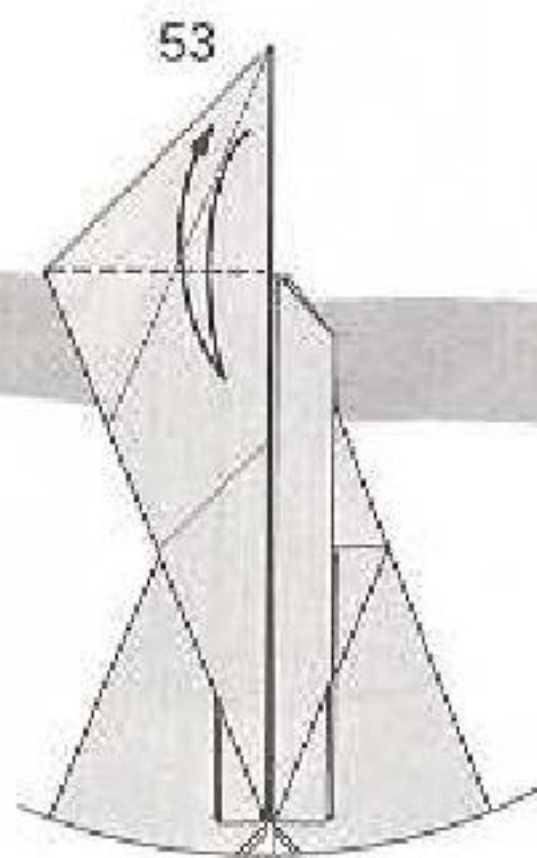
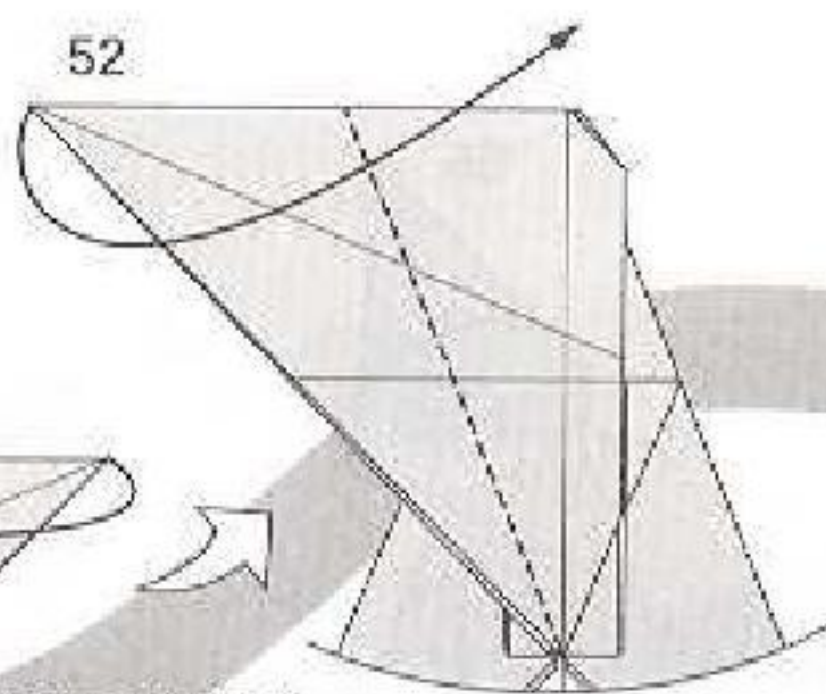
開く

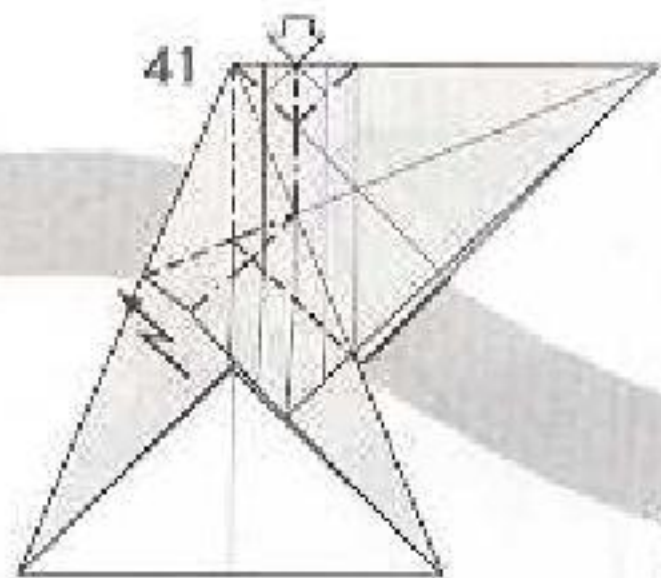


〔途中図〕

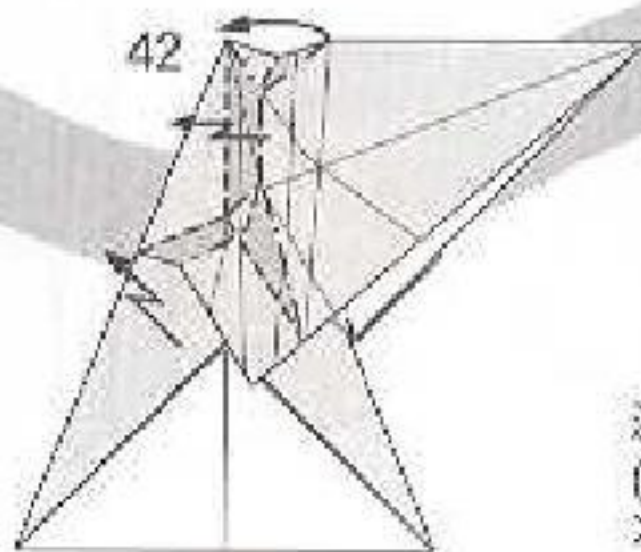


右側も同様に折る (45～50)

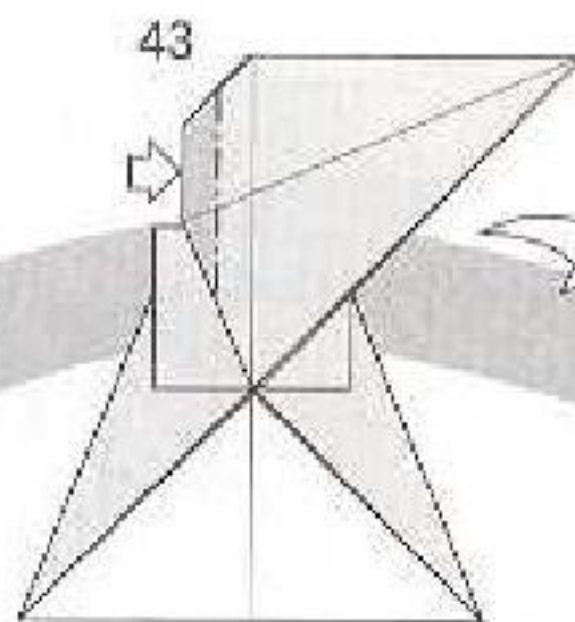




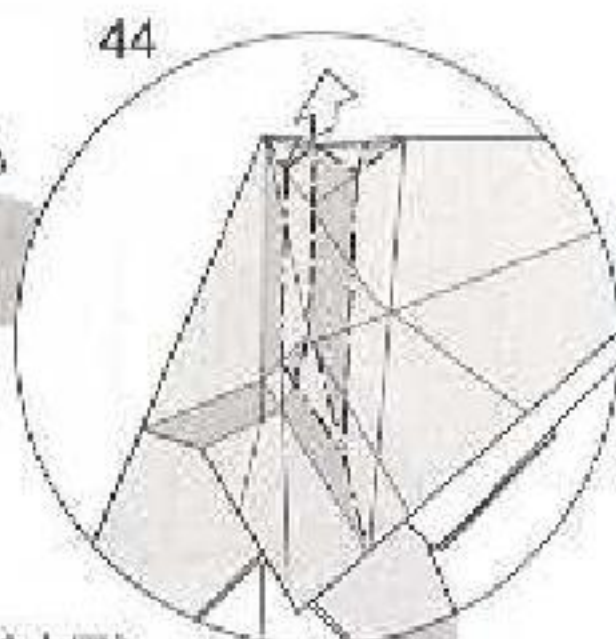
段折りして左側に引き寄せながら、白抜き矢印部分を押し込むように折る



〔途中図〕

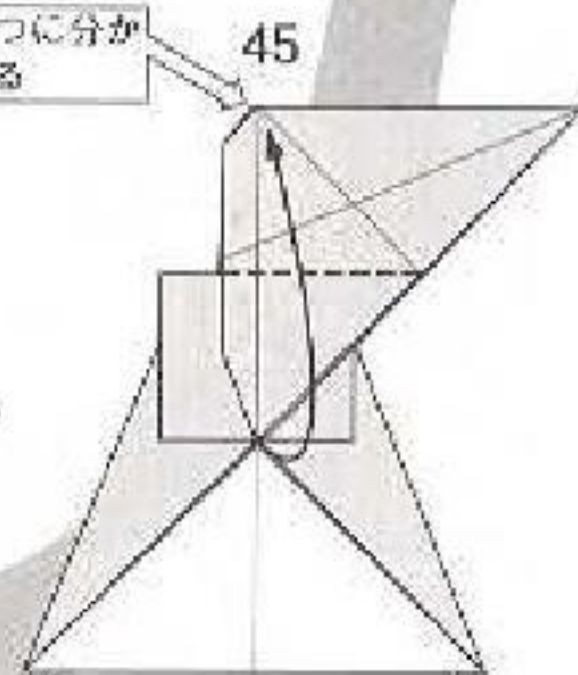


濃い網掛け部分をしずめ折り (Open Sink)
次の図をよく見ること！

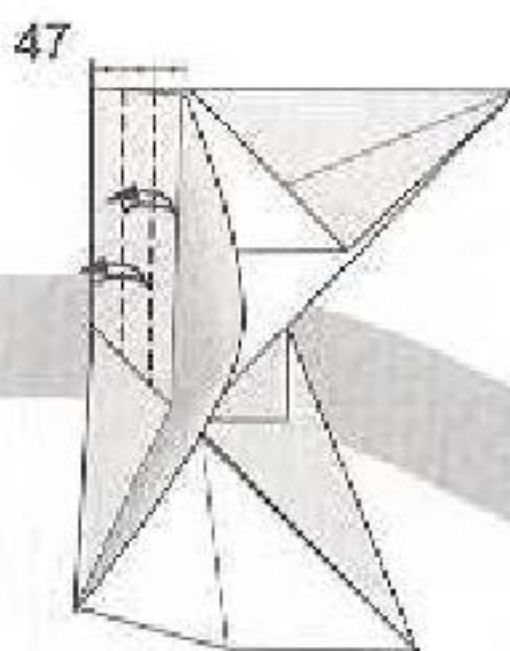
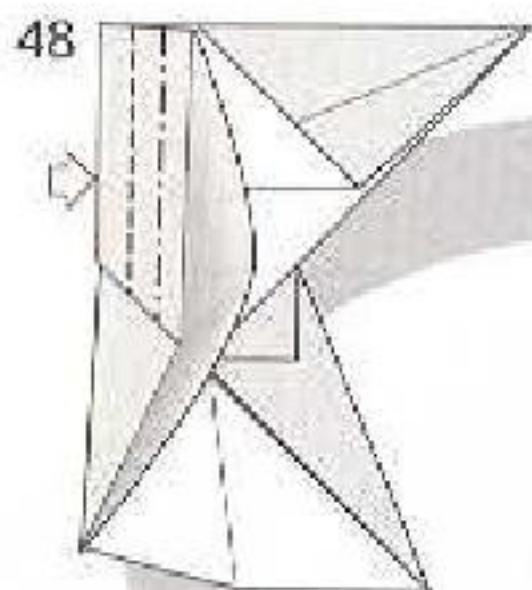


〔途中図〕
しずめ折りしながら、上部の頂点部を上方に引っ張り上げる

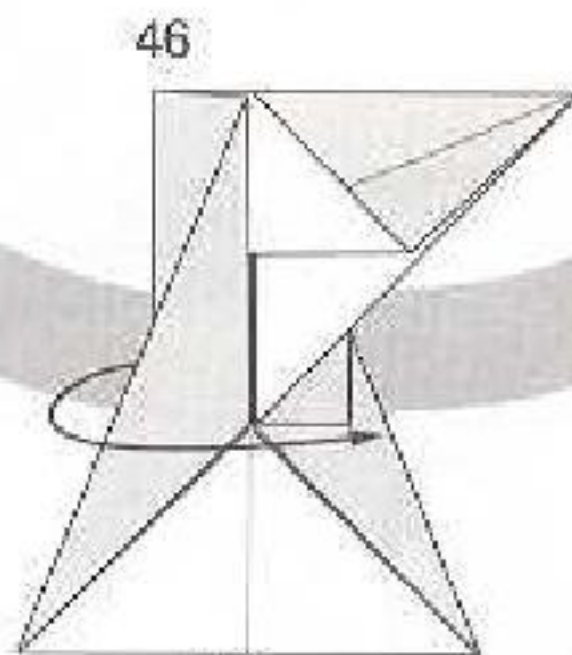
角が3つに分かれている



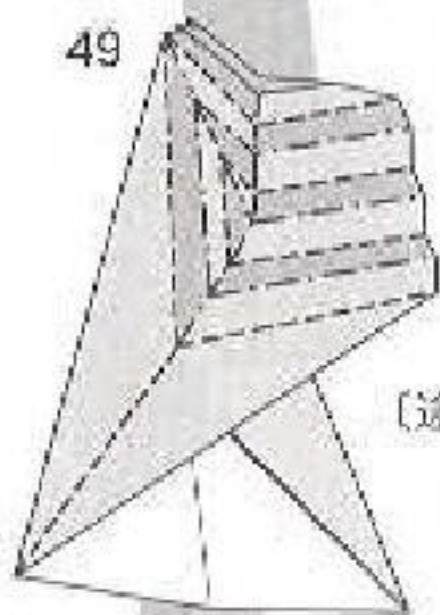
しずめ段折り (Open Sink)



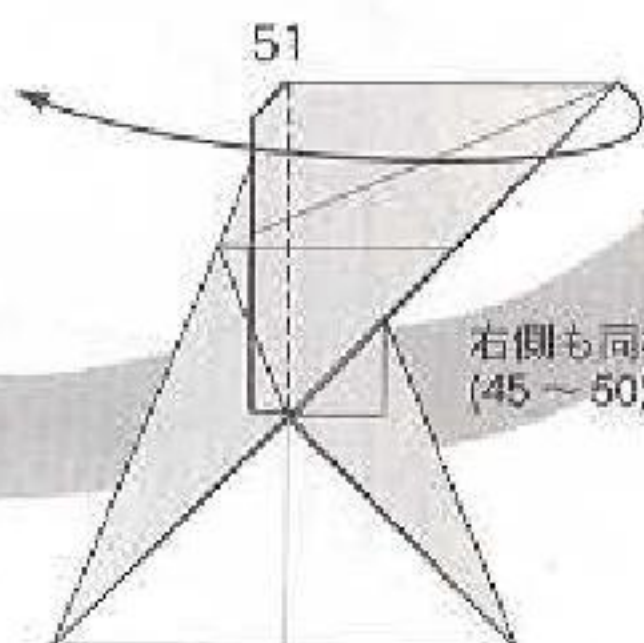
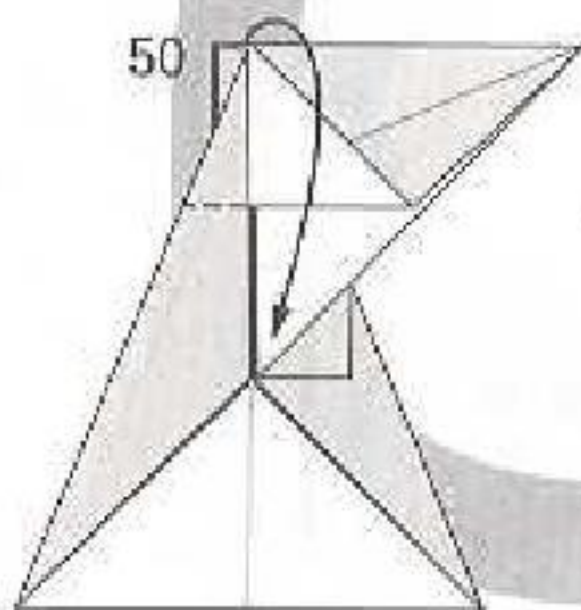
3等分して折り筋をつける



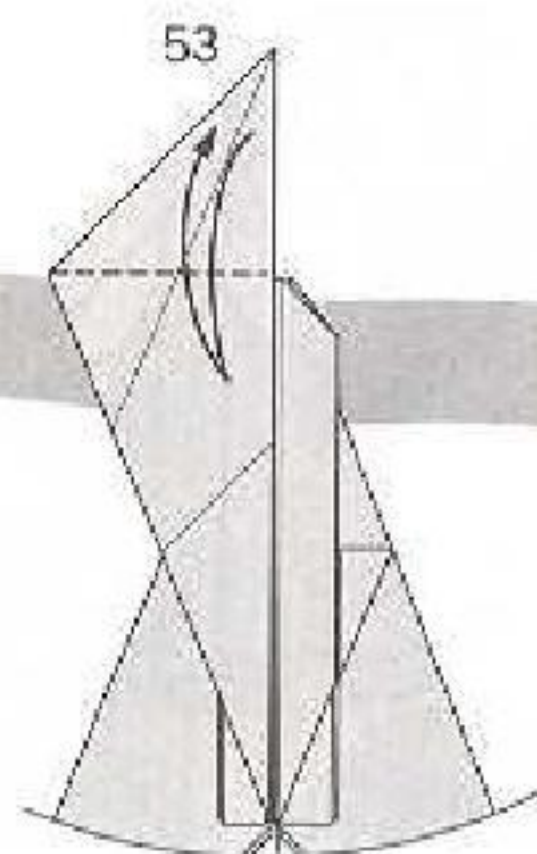
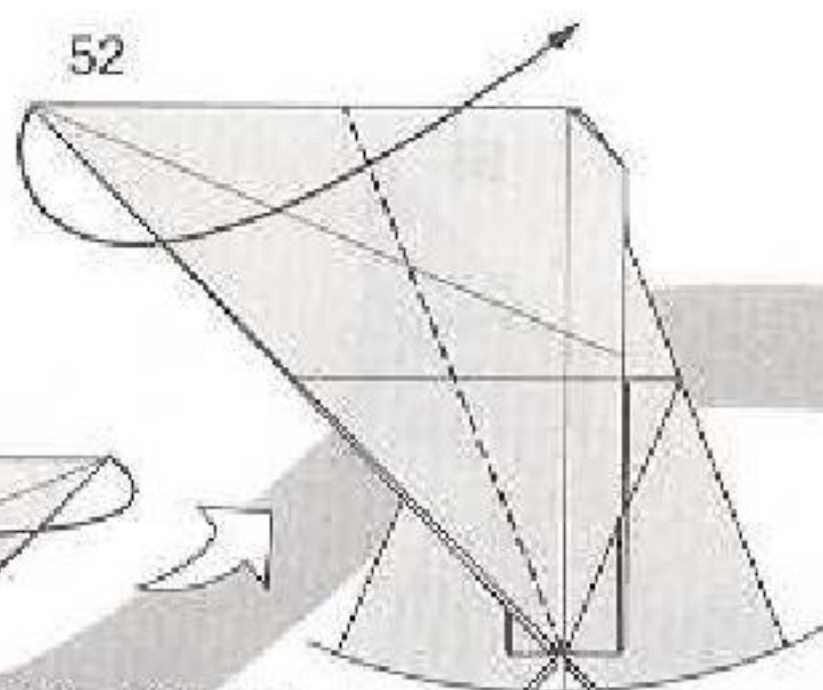
開く



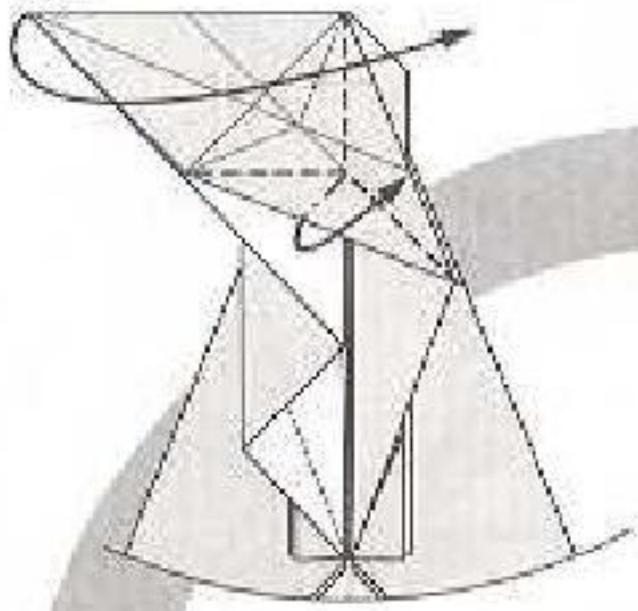
〔途中図〕



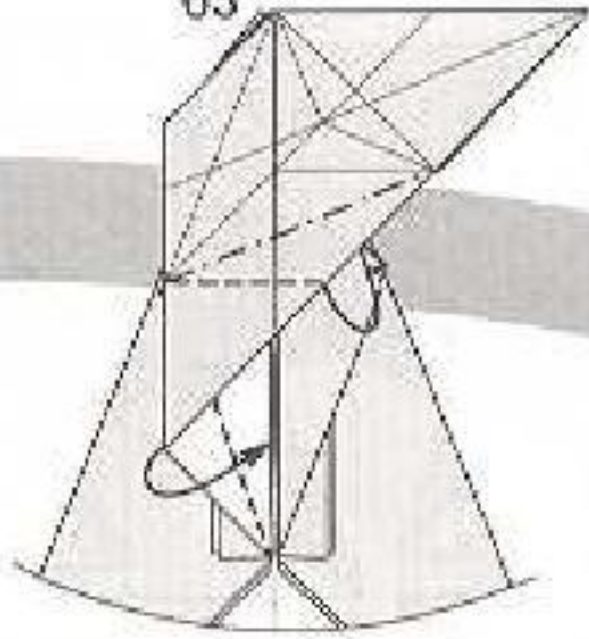
右側も同様に折る (45～50)



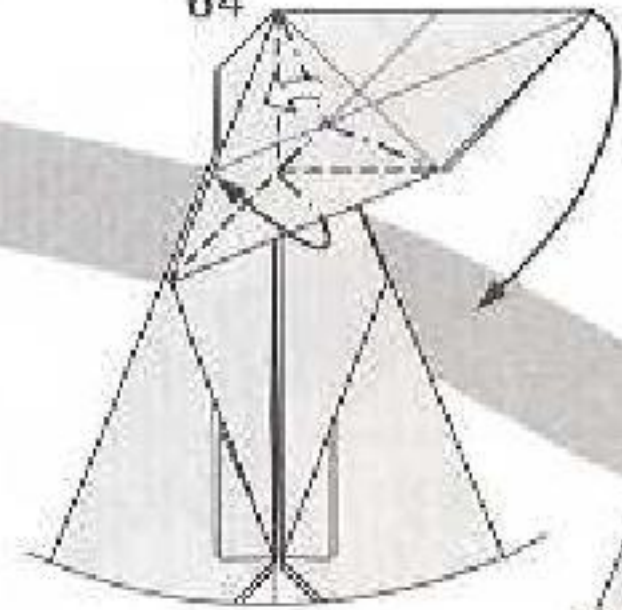
62



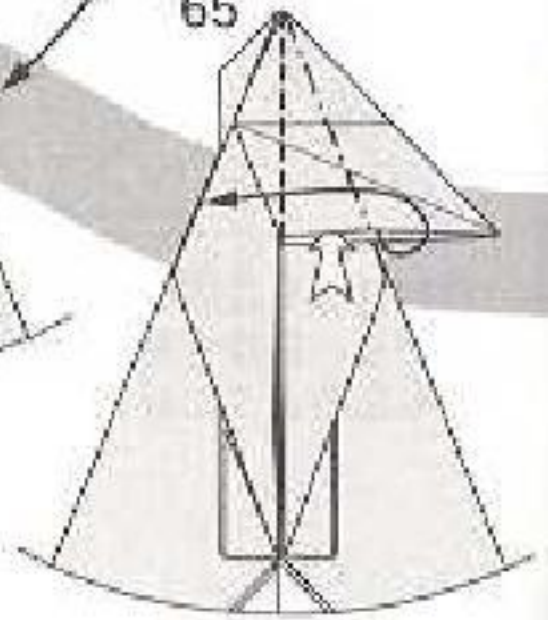
63



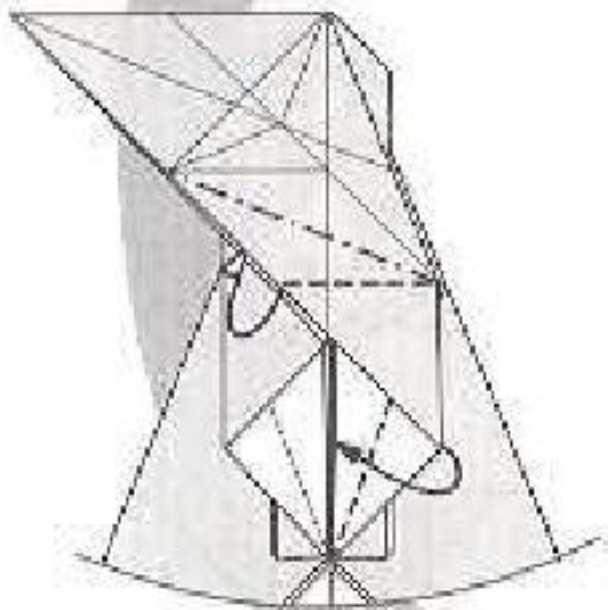
64



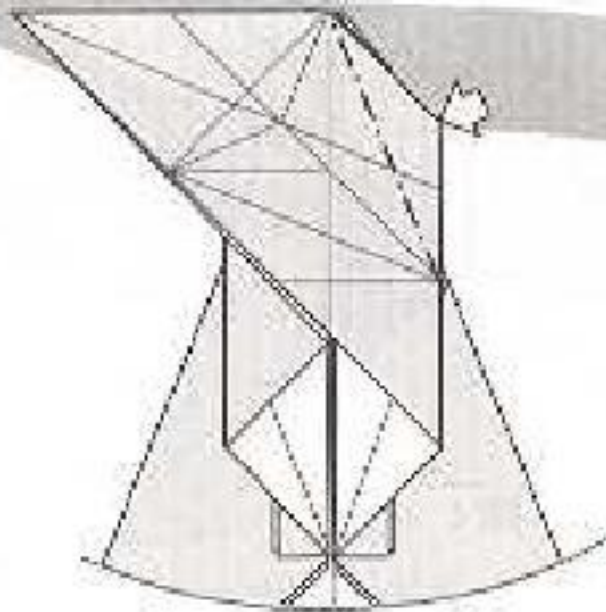
65



61

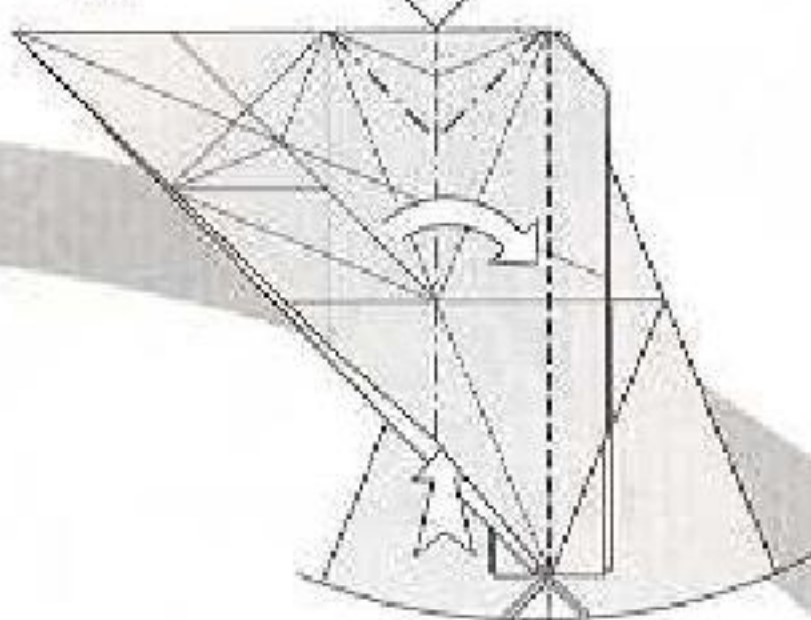


60



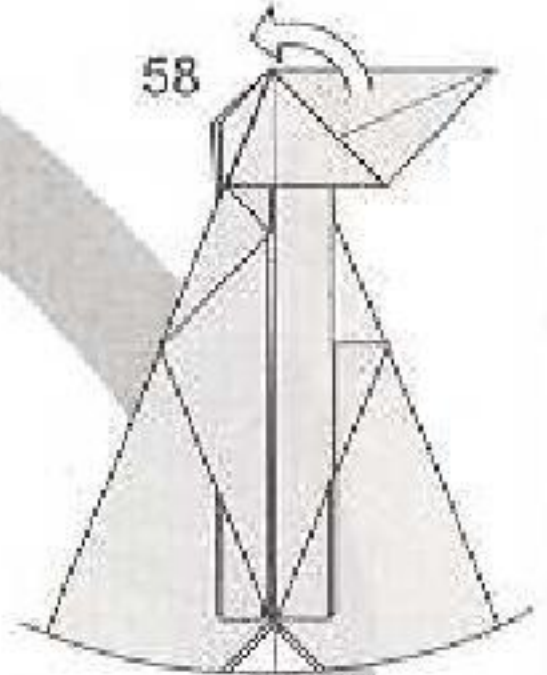
しずめ折り
(Open Sink)

59



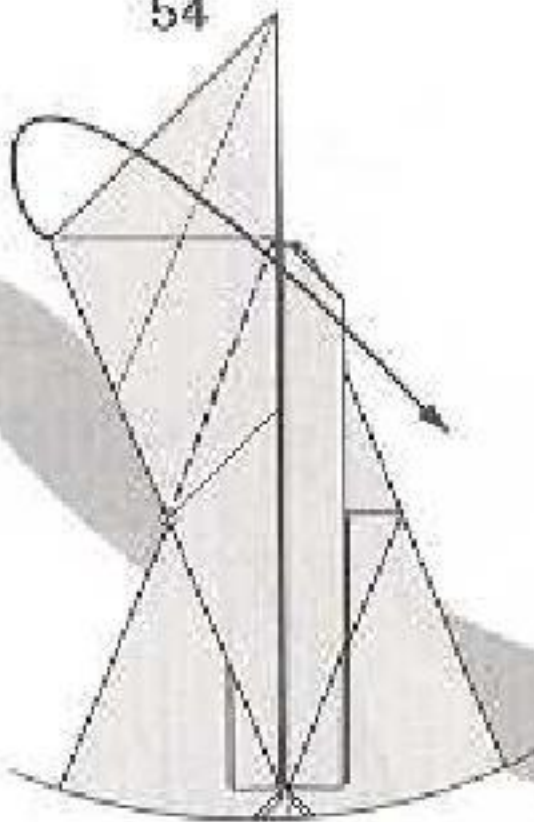
広げながら上部の白抜き矢印
部分を押し込むように折る

58

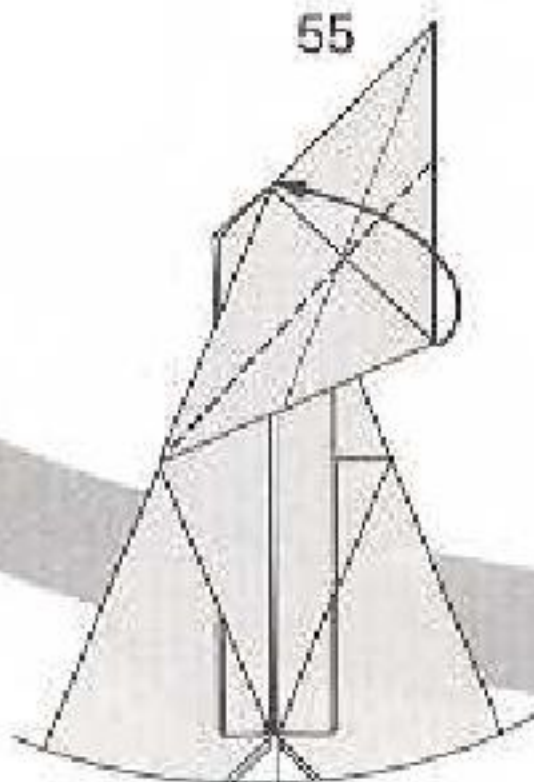


戻す

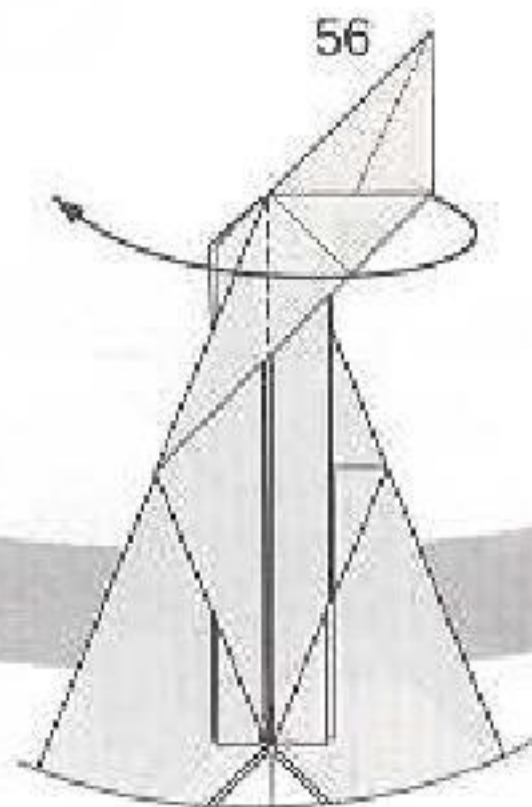
54



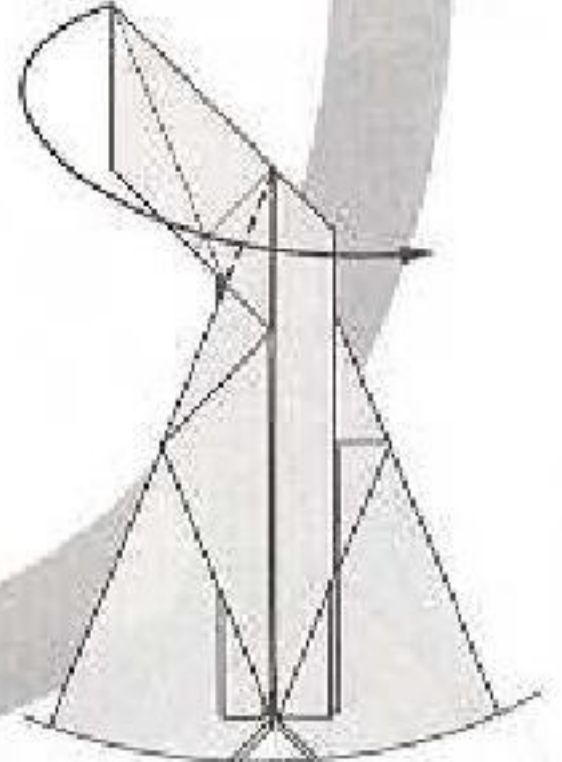
55

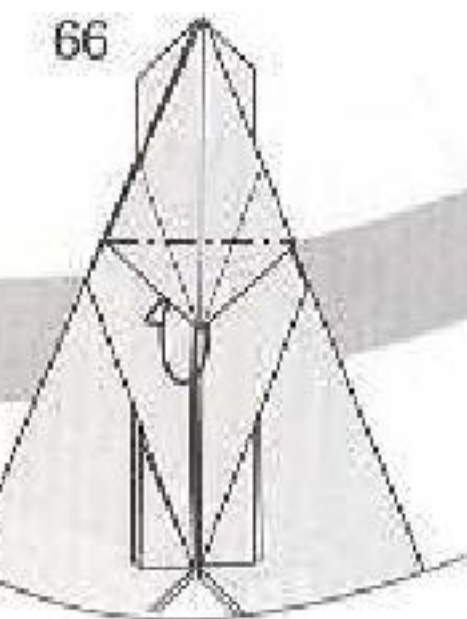
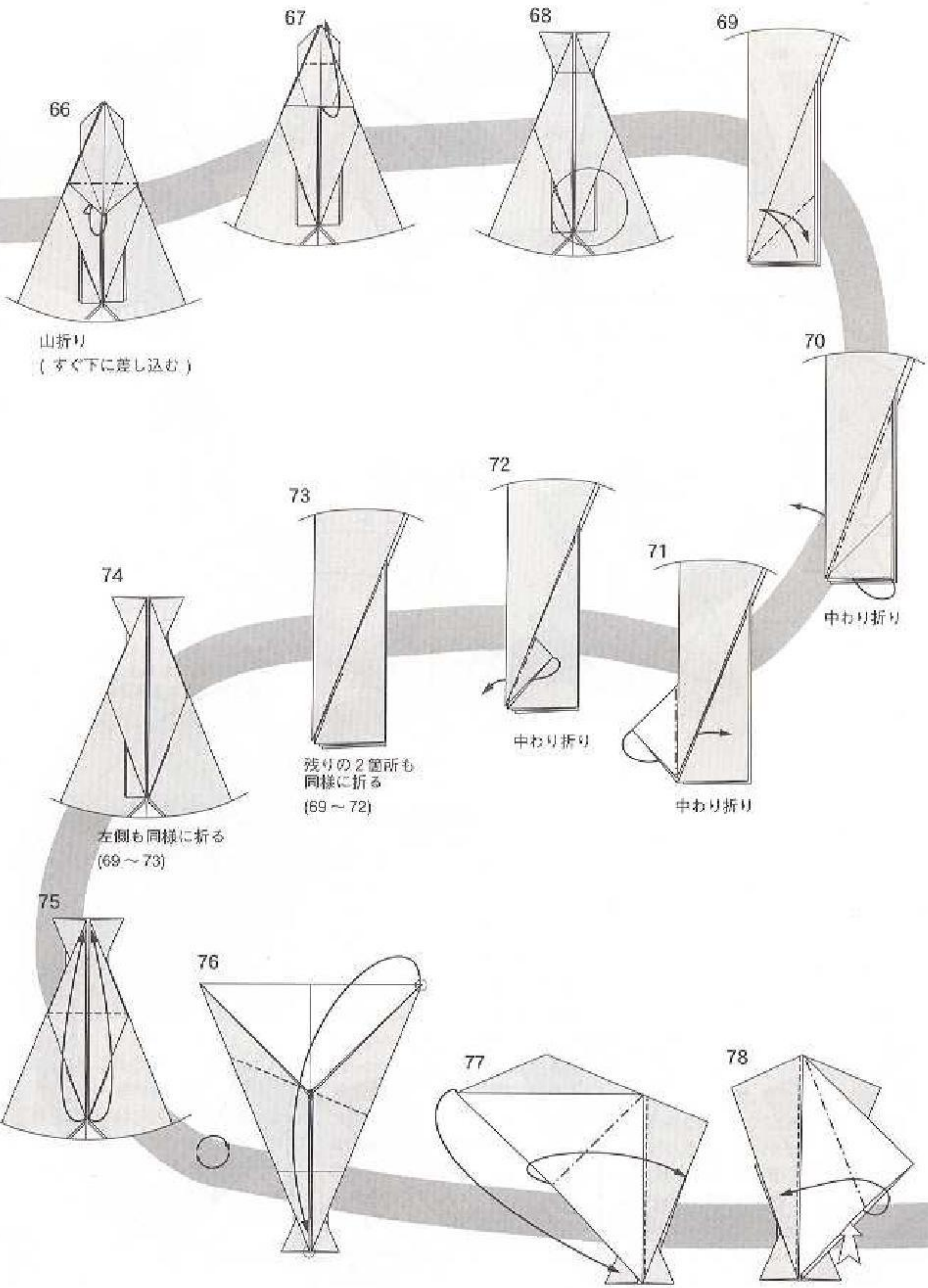


56

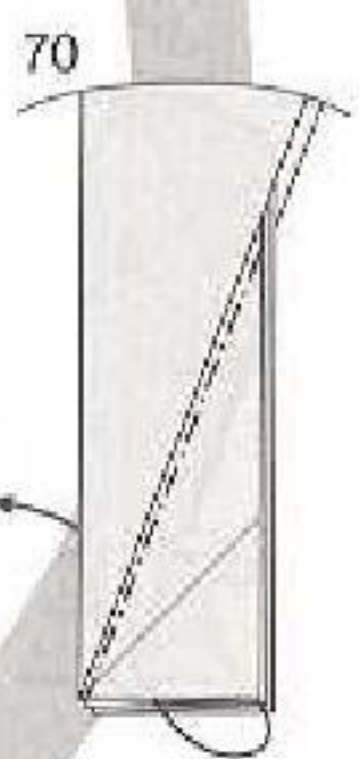
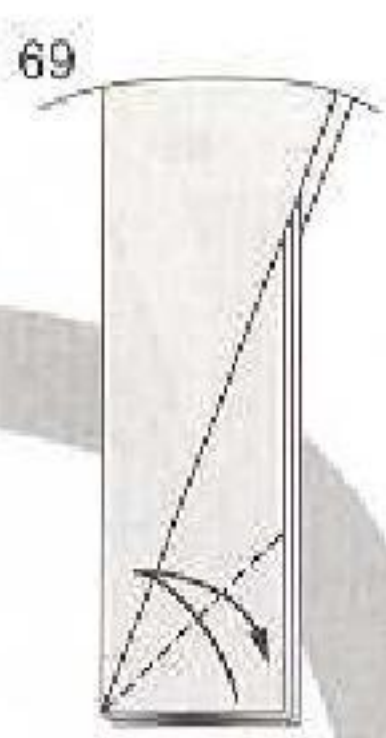
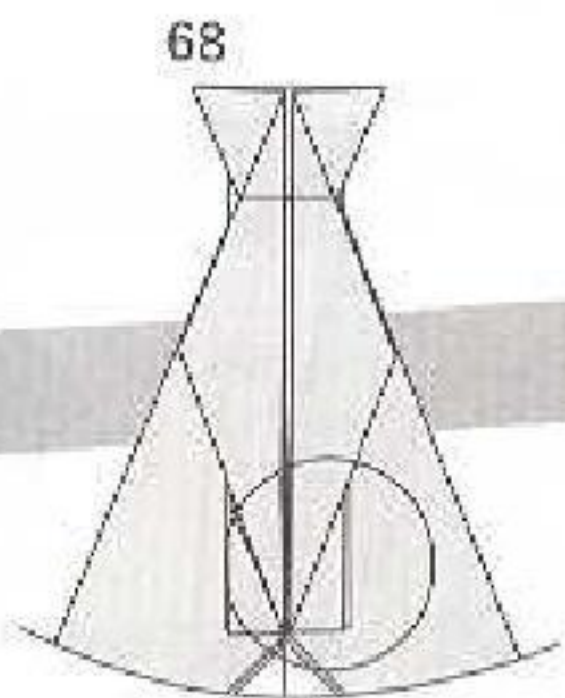
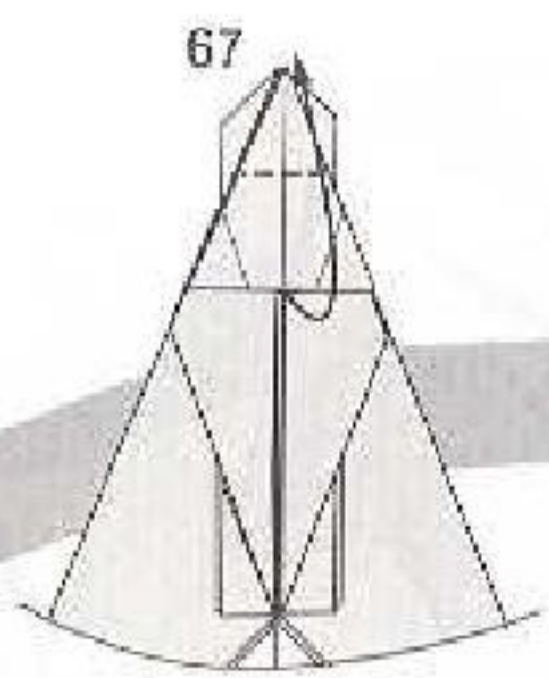


57

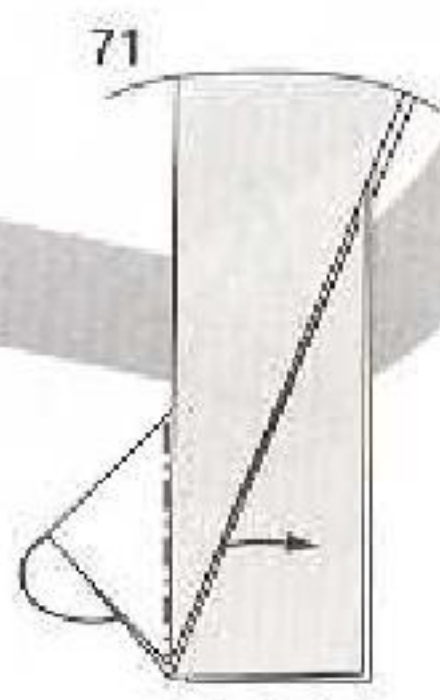




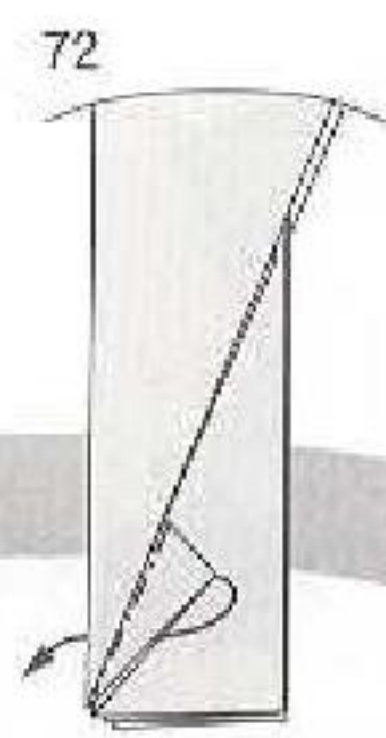
山折り
(すぐ下に差し込む)



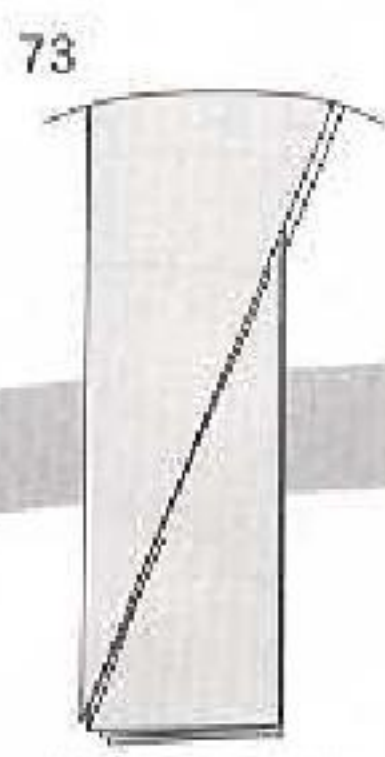
中わり折り



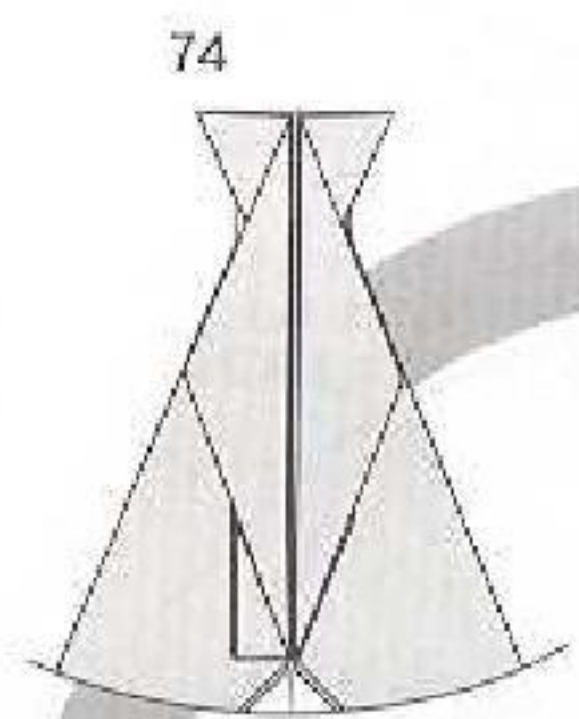
中わり折り



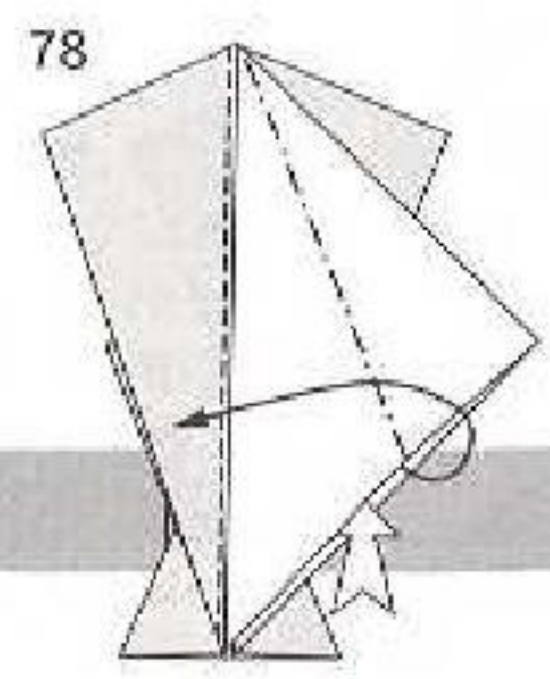
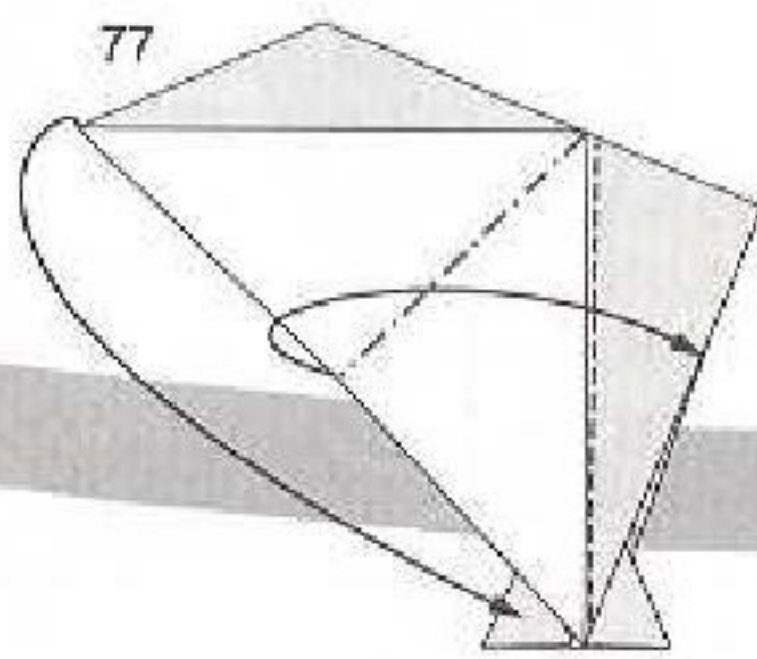
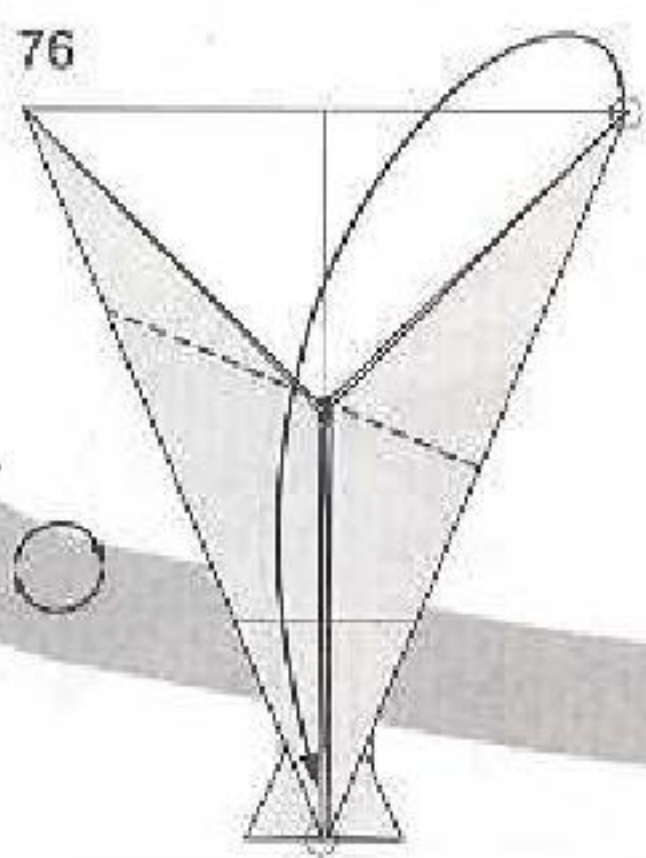
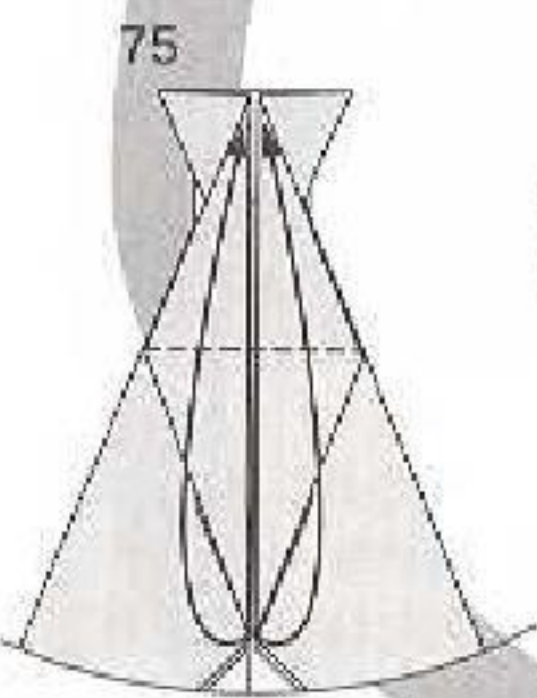
中わり折り

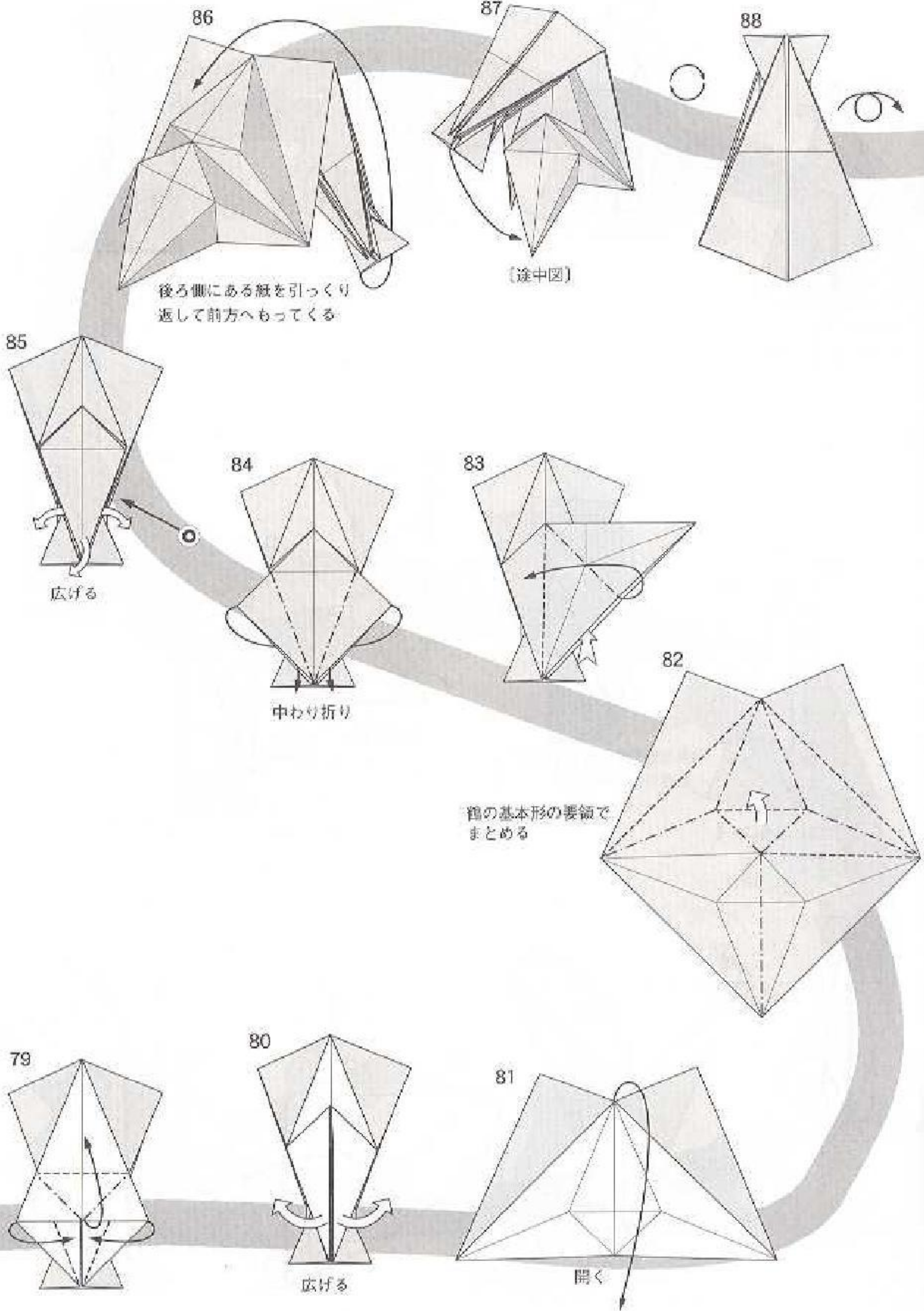


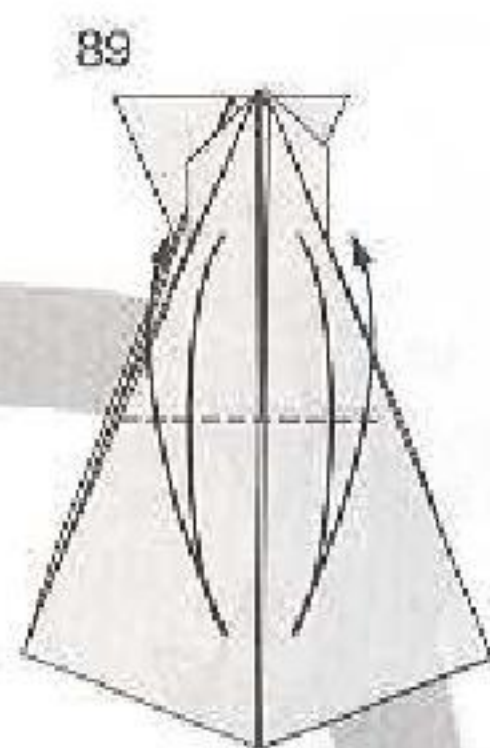
残りの2箇所も
同様に折る
(69 ~ 72)



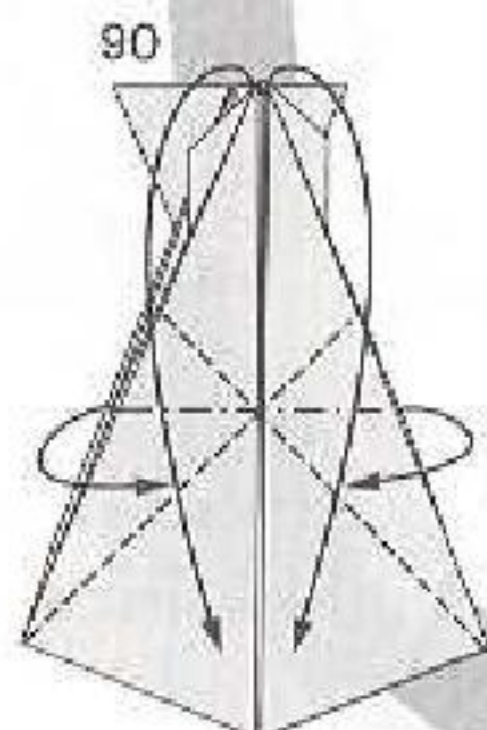
左側も同様に折る
(69 ~ 73)





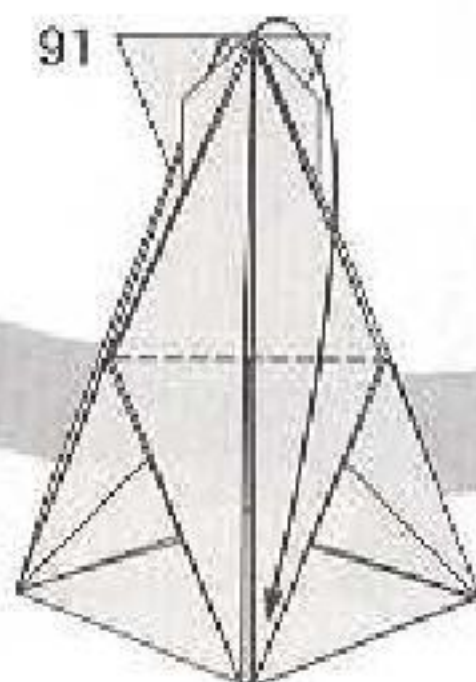


89



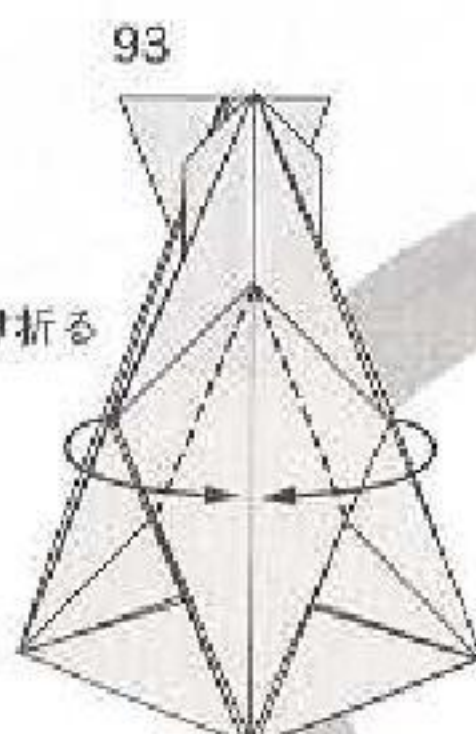
90

両側を中わり折りしながら
下におろす
(風船の基本形に似ている)



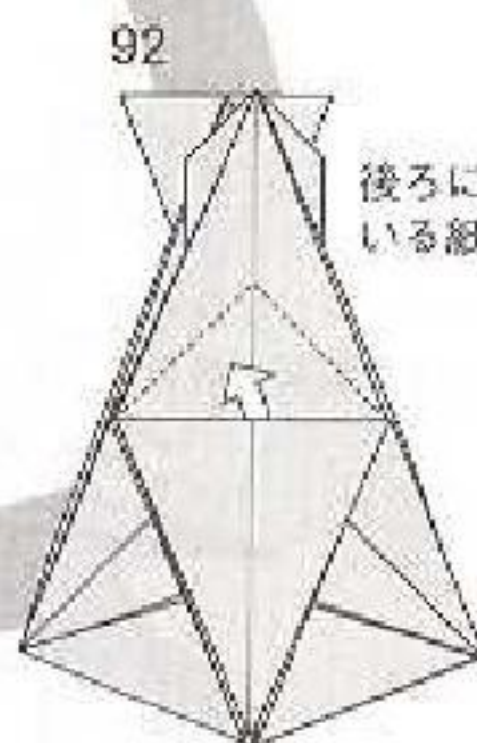
91

1枚だけ下におろす



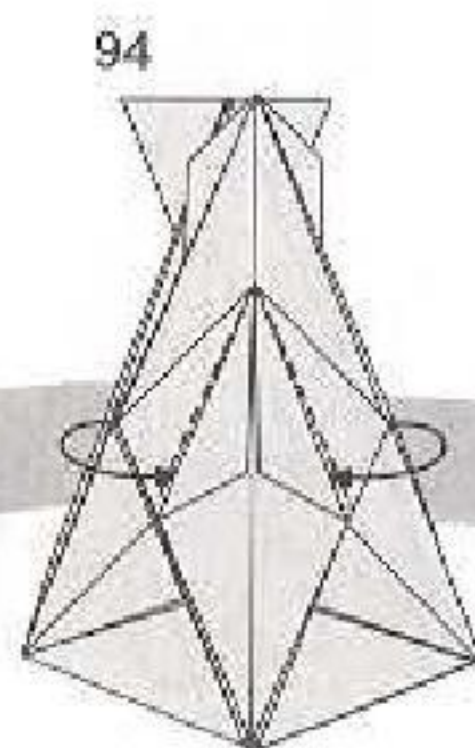
93

両側を
1枚だけ折る



92

後ろに折られて
いる紙を戻す



94

両側を折り、
下側に入れる

折り紙の 周辺

第1回
「紙」
Paper

Origami and
Its Neighbors

布施知子 Fuse Tomoko

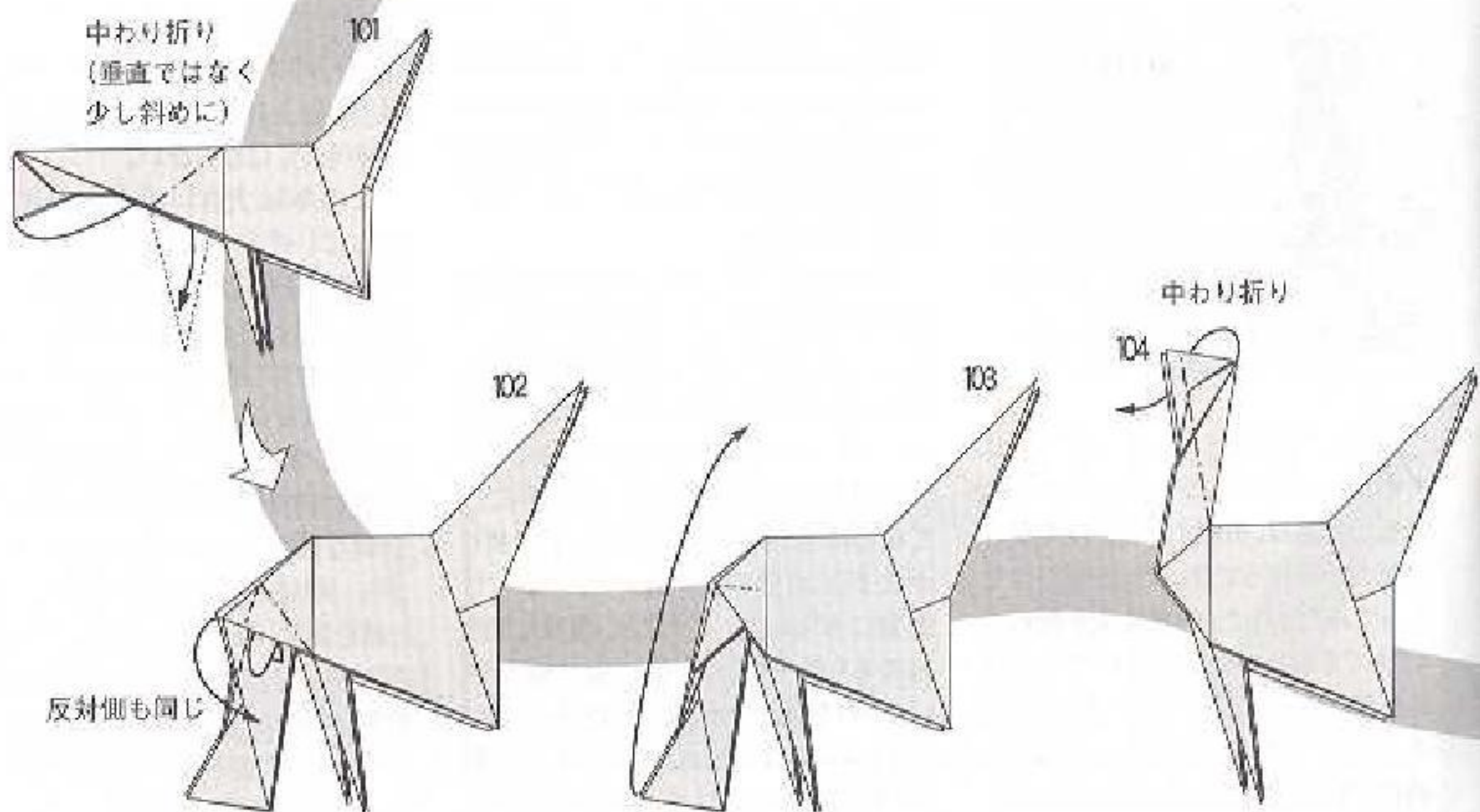
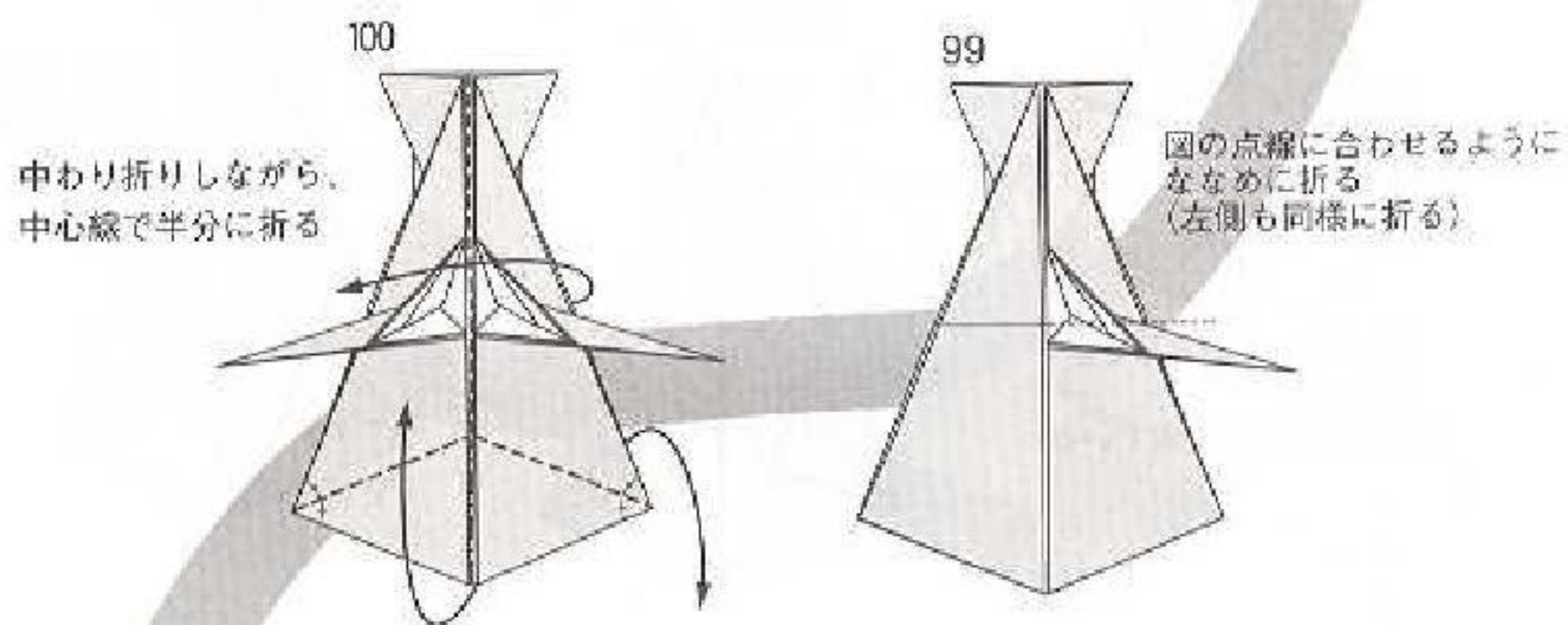
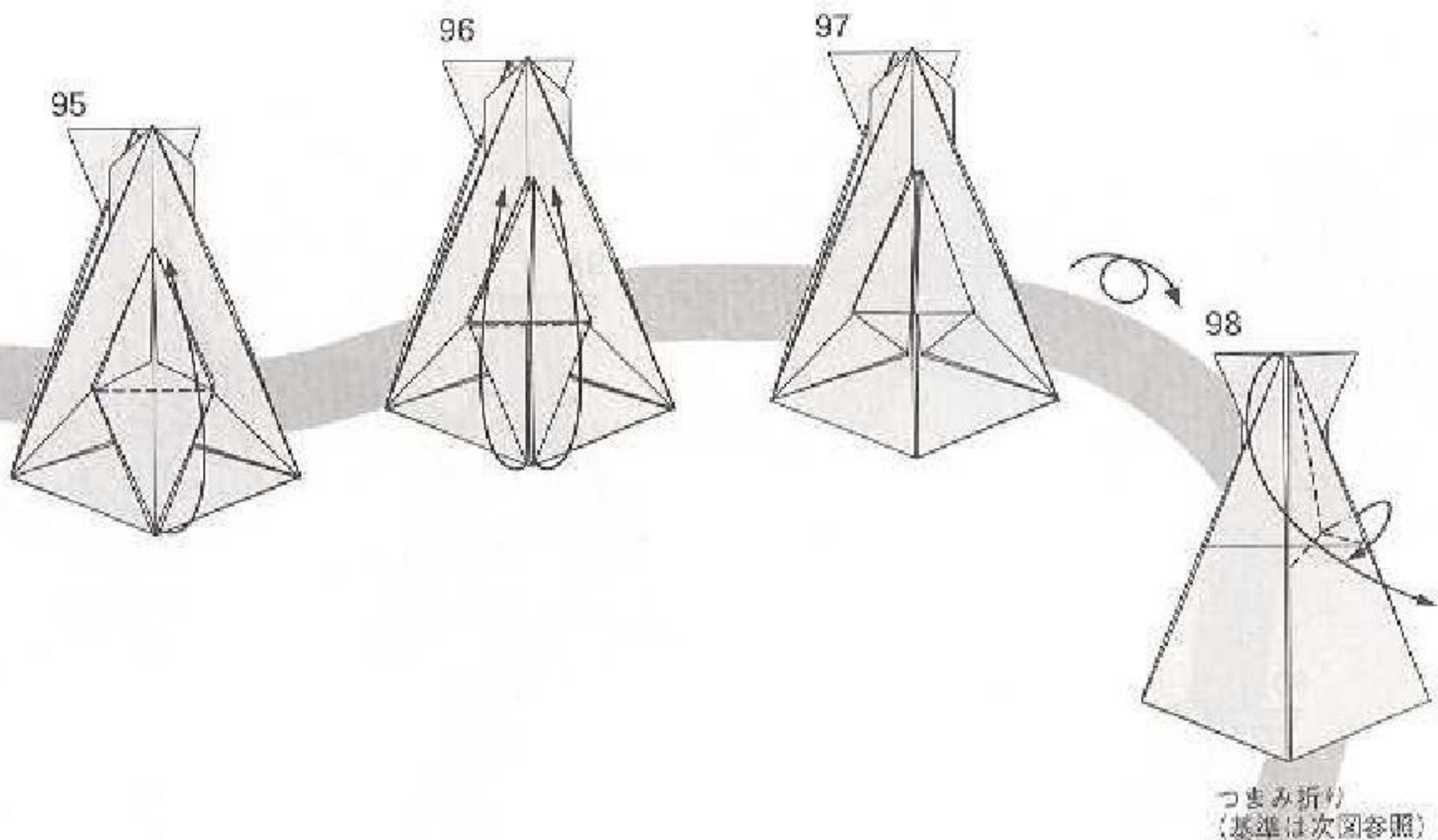
かれこれ20年前、はじめてのユニット折り紙の本と、それに続く数冊の作品は、市販の単色のおりがみ用紙だけを使って作った。それだけでやってみたかった。特別な紙を使わなくてもできる、ということをお願いの気持ちが強くあった。制限の中で配色がパターン化して参った。配色にこんなにも時間を費やすことが意外だった。友人

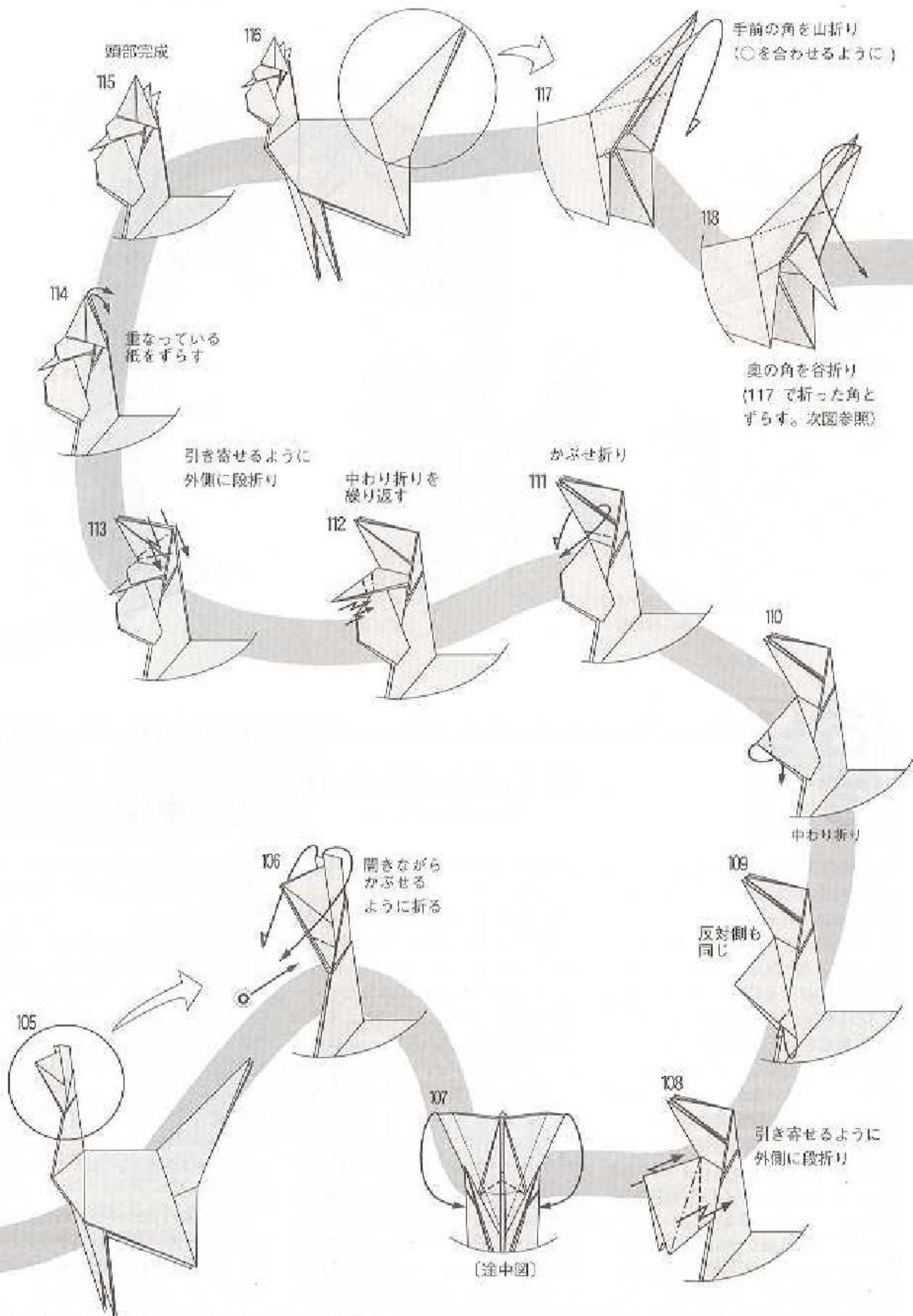
知人をつかまえては、この中から2色選べと迫ったりした。紙質は一緒だったので、問題は色だけだった。おりがみ用紙が折り紙専用の特別な紙だとは、そのとき思ってもみなかった。

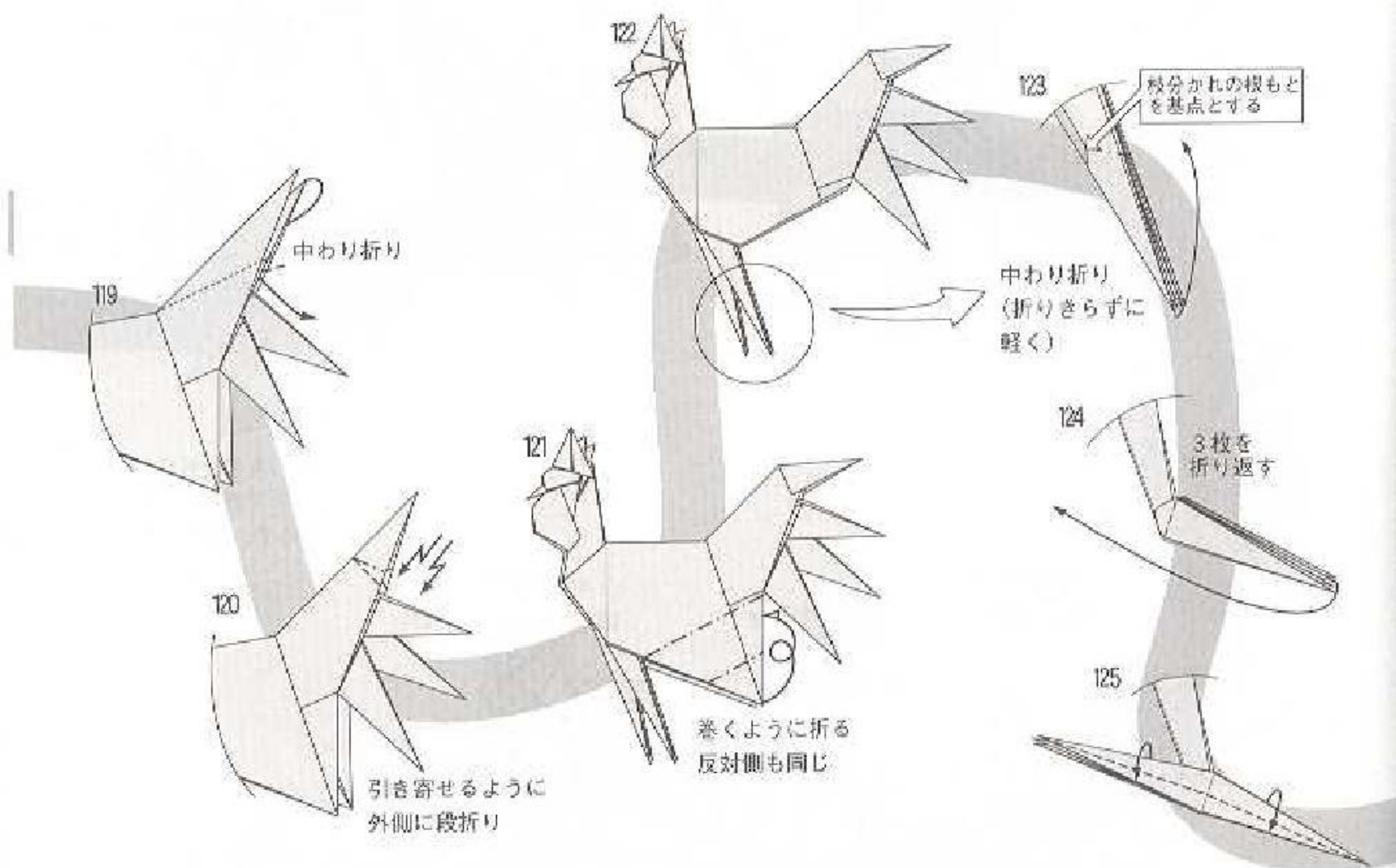
その後、千代紙や包装紙や雑多な紙を使うようになり、紙質に気を配るようになった。というより、折り紙は紙質が先、ということを知った。今後ペーパーレスの折り紙が出てくることも予想されるけれど、実際に紙を手にして折る場合、折りは紙を選び、紙で折りが決まる。自分で紙を漉いたら、なんて気楽に言う人もいますが、簡単に組み立てるものでもない。紙は店に並んでいるものを見たり触ったりして、あれこれと思いめぐらす。実はこれが夢膨らむ楽しい時間。折り図は「見る」ではなくて

「読む」のであって、そこから「見る作品」に仕上げるには、紙や色調に心砕かなくてはならない。

この冬は大きい手漉きの和紙を使って「ぜんまい折り」を集中的にやった。紙を広げてくまなく見渡し、繊維の流れと広がりを見る。これから時間をかけて、紙の隅々まで手で触り、折り、していくのだ。しんとした気持ちになる。基本線をつけるのが苦しい緊張の時間で、折りに入れば比較的単純な作業となる。そして線を引ながら、折りながら、否定でもずっとずっと楮を剥ぎ、叩き、晒し、漉いた人の手技と心を感じることになる。折り紙と紙の呼吸があったとき、紙は指と折り紙に吸い付くように寄り添い、ほかほかと暖かく幸せな時間が訪れる。







おり すじ

Orisuzi ("Fold-Creases")

ぼくのたからもの

My Precious Things

中村和也

Nakamura Kazuya

「その本」を手に入れたのは10年ほど前の夏、東京は晴海、国際見本市会場だった。

模型のイベントが行われている会場を、紙ぶくろを抱えてうろついているなかで見つけたそのブースは、他のブースとは明らかに異なる存在だった。そこに展示されていた物は折り紙、しかも今までにみた事もない物であった。本こそ持っていないが、折り紙は好きだったので興味津々そのスタッフに話かけては、世の中にはこういう団体(折紙探偵団)も存在するのかと思った。「飾られているこの作品はこの本で折ることが出来ますよ」という甘い言葉に半信半疑ながら購入、「まあ、ええ暇つぶしになるやろ」というのが家に帰って実際に折ってみるまでの正直な

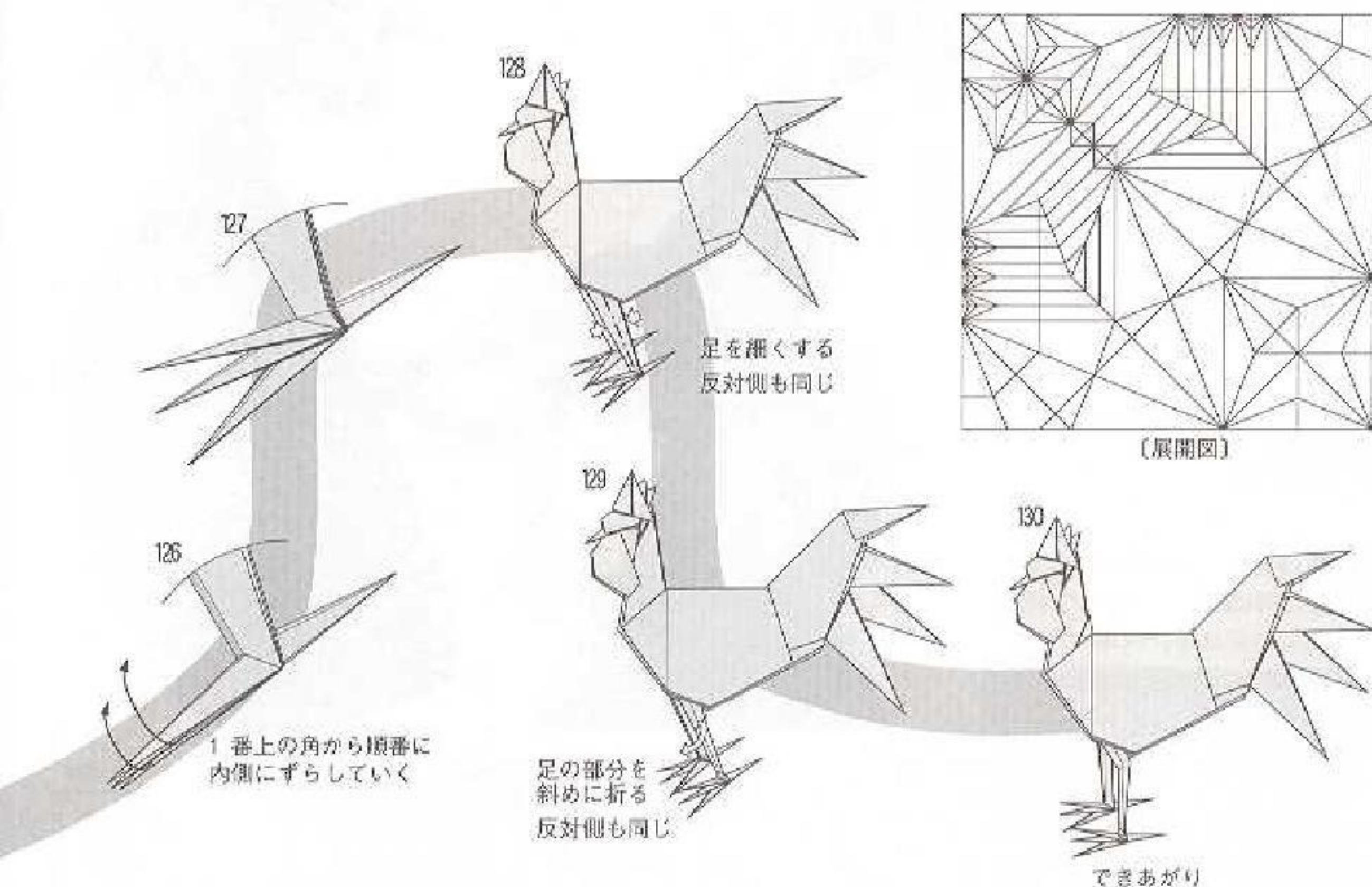
気持ちやったと思う(甘い言葉に真実はなかった)。

その当時、別に趣味ではなかったが、貧乏症の私の机にはいつからあるのかもわからない折り紙が入っていた。技術的についていけないのは最初のパーツであきらかになったが、とりあえずそのまま無理無理折り進み続け、一応は完成した。だが余り物の折り紙は当然単一色のはずもなく、複数枚使用するその作品のできあがりには実にカラフルであった反面、東京で飾られていた迫力はなく、実に悲しいものであった。「折図とセットになっている折り紙(購入時折図には15cm両面同色の折り紙が必要枚数分セットになっていた)で折るのはまだ早い」そう感じて練習でもう1体折り、いよいよセット品に挑戦、単色の折り紙を使い折りあげ、自作の

飾り台にのせた完成品は、自分の中では最初にこの作品に出合った時の感動そのものだった。

ひとつの作品を完成させる為に同じサイズの折り紙が21枚と出来上がるまでの枚数が多いだけに、そう何体も折りあげているわけではないけれども、今までに1枚の大きさが小は2.5cm角、大は79cm角まで色々なサイズで折っている。この中にはすべてを折りあげた後、組んでいる最中に自分の部屋に飾る場所がないことに気づき、なくなぐ完成品をみる事もなく消えていったものもあるが。

「たからもの」はいくつかあるが、私の中では吉野一生さんの「ティラノサウルス全身骨格折図」はその中でもひとときわちがった存在となっている。



折紙三昧

⑮

Origami-Zanmai (This Origami and That)

片づけ下手の言い訳

How I Should Be Bad at Tidying

「駅すばあと」というコンピューターソフトをご存じの方も多いことでしょう。出発駅と到着駅を入力すると、時刻表データなどと連動して瞬時にルートや乗り継ぎ時間を教えてくれる、出張などの計画には頼りになるソフトウェアです。これに頼るようになって数年、妙なことに感心するようになりました。ソフトの出力に従って列車に乗って意外をばんやり眺めていると、途中の駅名がすこぶる新鮮なのです。ひどいときは、2、3週間前に目的地であった駅が、今回の目的地の直ぐ近くであることを間近に来て初めて認識する、なんてことが起こるようになります。地図や時刻表で途中駅を指で辿りながら見ていれば、前回の訪問地も当然気がつく、こういうものです。そう言えば、漢字忘

れをワープロの所為にしたのはもう10年以上も前のことだなと変な感慨に耽ってしまいます。そんな連想から、乱雑に積み上げられた机上の書類の中からそれ程の苦もなく目的の1枚を探し当てる人の仕組みがふと頭に浮かびました。きれいに分類された書類から目的のものを選び出すのに比べると、乱雑なそれは個々には多少時間はかかるでしょう。けれども、この山に有ったはずだとの見当はほとんど外れることなく、周辺をバラバラ捲り探し当てる。実はこの時に周辺を見ていることが重要で、そうしながら次回の書類探しに役立つ葉が無意識に頭の中に出来上がっているということではないでしょうか。ちよとした手間(整理しておく事ではなく、バラバラ見ることです)の効用を定量的に表すのは難

しそうですが、意外に大きい違いありません。折紙の折り手順などは正に目的の形を得るためだけの通過点ではなく、何時か目的地となる多くの駅を無意識に通り、見たことのある風景と新鮮な風景を感じ取る重要な時間を与えてくれます。出来上がりの形そのものに引きを取らない大事なものを与えてくれていると思います。

今号から折紙探偵団誌も14期目に入ります。誌面も連載ものを幾つかリニューアルしました。新規にあるいは引き続き購読していただいた皆さまに感謝申し上げます。

西川誠司 Nishikawa Seiji
日本折紙学会 評議員代表

展開図折りに

Crease Pattern

挑戦!

第25回

バイオリン奏者

Violinist

(2003年版)

北條高史

Hojyo Takashi

Created : 2003.05.02

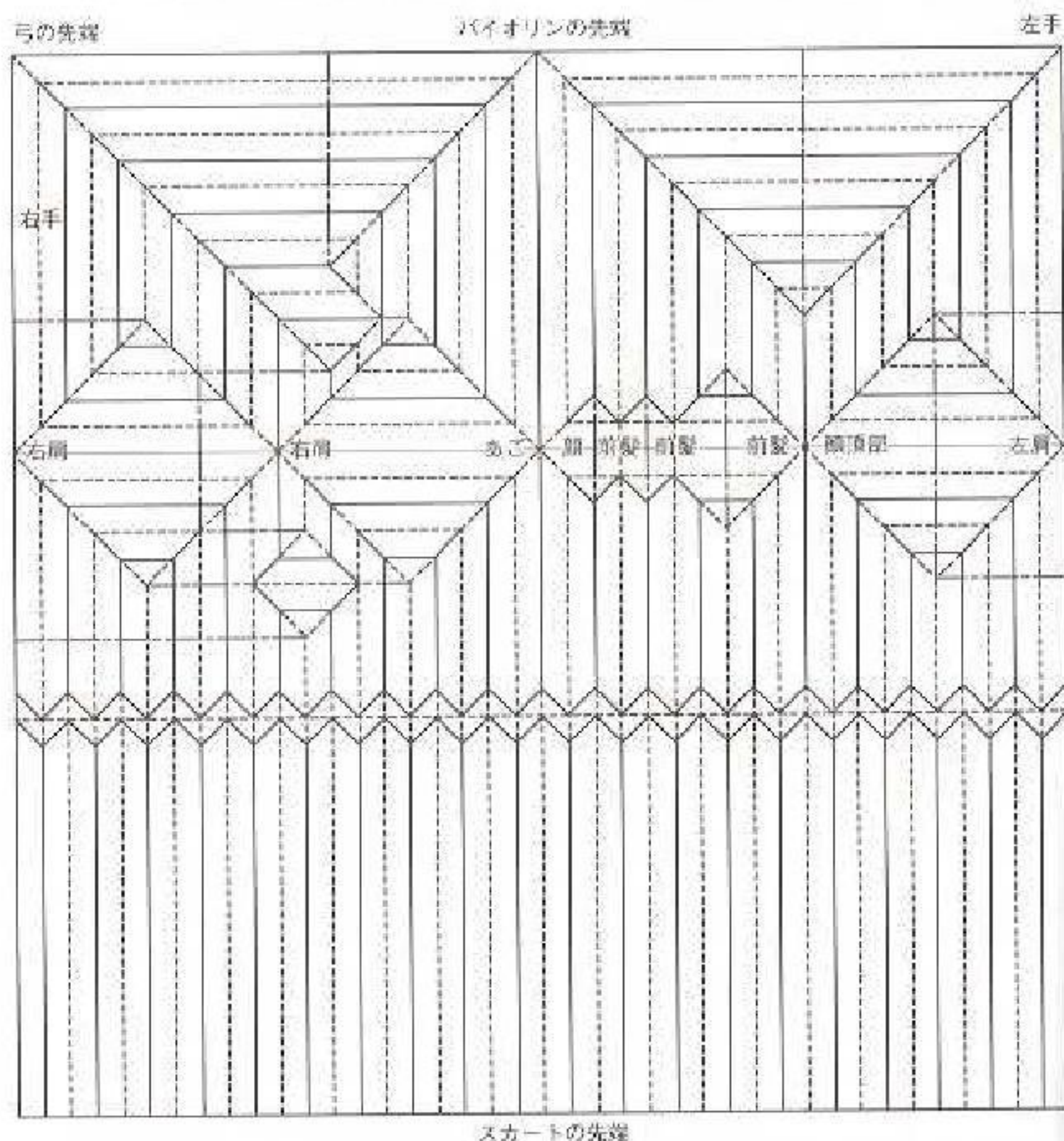
Paper Size : 50×50 cm

Height : 27cm

この展開図は用紙の裏から見た折り線を示したもので、実線は山折り、点線は谷折りの線です。用紙の両面が完成作品の表面にあられるため、実際に制作するときには表裏同色の紙を使用するとよいでしょう。全体のおおまかな構造は辺を40等分した蛇腹折りで、上方から8分の3の位置で用紙内部から頭部の構造を引き出しています。

「バイオリン奏者」というテーマを折り紙作品にするにあたっては、バイオリンを持つ上半身に複雑な構造が集中し、逆に下半身は空疎なイメージになりがちです。これまで筆者は同じテーマでいくつか創作をしていますが、この点は常に悩みの種でした。今回の作品では全体のイメージ・情報量のバランスを調整するため、上半身を極端に小さくデザインしてみました。さらにスカート全体に細かくブリーツを施し、段差と装飾的な折りを加えています。この段差の折り出しは、すでに幾何的な作品で多用されている構造ですが、人物造形で使用した例はあまりないのでは、と思っています。

右腕に弓を持った形状とするため、腕の長さを左右非対称にすべく内部構造に手を加えています。ここに示している展開図以外に、さらに合理的に左右非対称のカドを折り出せる構造も考えましたが、用紙の重なり・厚みをデザイン的に処理しにくかったため今回の構造におちつきました。



筆者がこれまでに発表している「バイオリン奏者」は、季刊『をる』第4号や拙作ホームページ「北條高史創作折紙作品集 現代折紙紙」<http://www11.ocn.ne.jp/~origami/> で見るすることができます。